

第1部 序論

1.目的

菊陽町(以下本町)は、白川中流域の水と肥沃な土壤に恵まれ、豊かな穀倉地帯として栄えてきました。その事績は古代から中世、そして江戸時代の歴史資産、有形、無形の文化財として残されています。一方で、近年ではハイテク産業の拠点として、商業、生活の拠点として目覚ましい発展を遂げ、他の地域からの転入により人口が急速に増えて入る中で、地域の文化や歴史的な景観が失われつつあります。町域は、昔ながらの田園風景と、新しい町並みに分かれ、それぞれの地域間の融合はまだ十分に進んでいるとはいえません。

そこで、「菊陽町文化財ツーリズム振興計画」(以下本計画と呼ぶ)では、町内の様々な文化財をもう一度見つめなおし、磨き上げ、町・町民の皆さんの「心の拠り所」をつくることを目的に策定します。さらには、文化財を町の魅力を地域外に発信する素材としても捉え、観光などによる交流人口の拡大、企業誘致、移住・定住促進の施策とも結びつけていきます。本計画の主な内容は以下の通りです。

■ 菊陽町の文化財の価値を再認識する

従来からの文化財においても、時代の変化の中で、新たな評価・価値を生み出すことがあります。本計画の策定にあたり、町内の有形無形の文化財、文化財候補をもういちど見つめなおし、価値を再認識します。

■ 文化財で菊陽町のアイデンティティ確立を図る

上記の計画を策定・実施することで、文化財を菊陽町の心の拠り所、町民の皆さんのつながりの象徴(アイデンティティ)としての確立を図ります。

■ 菊陽町の文化財で交流促進を図る

文化遺産の価値を再認識して上で、菊陽町総合計画の指針に沿った町づくりへの活用、あるいは他地域からの流入・交流人口の拡大への活用などを図ります。



2.計画の構成

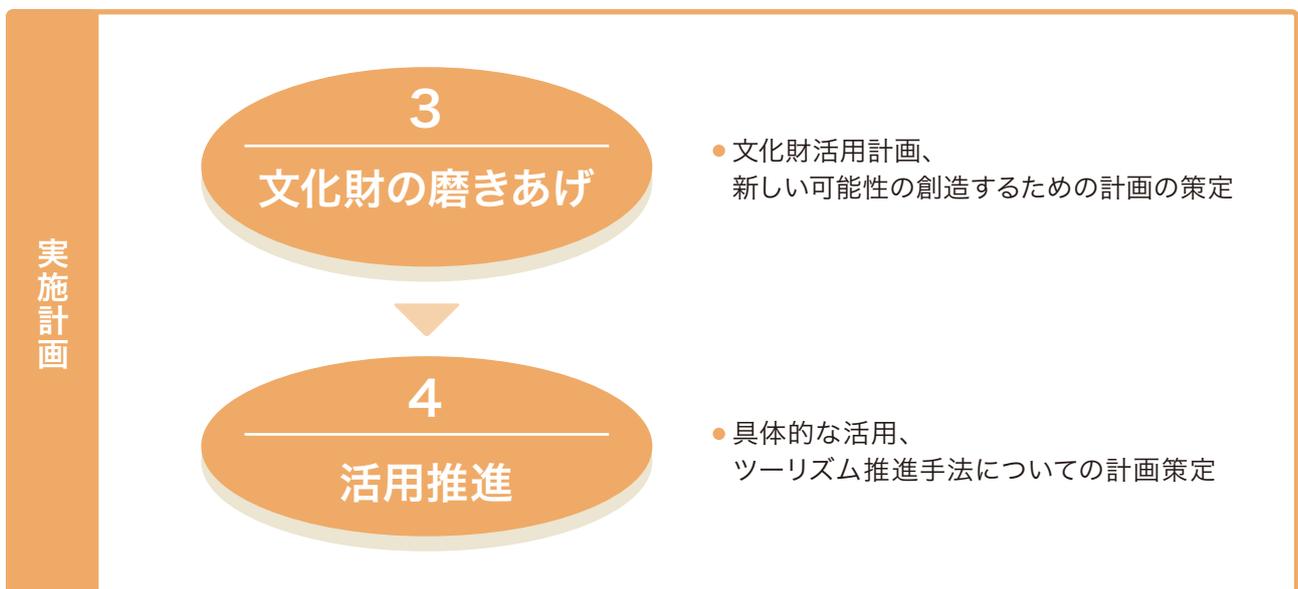
(1) 基本計画

基本計画は、本町の文化財の現状と、町づくりの指針を示した「菊陽町総合計画」を照らし合わせた上で、本町における文化財の位置付け、今後の保護および活用のための基本的な方針を示すものです。平成28年度(2016年)を初年度とし、平成32年度(2021年)までの五カ年にわたる方向性を記します。

(2) 実施計画

実施計画では、基本計画に基づいて本町の文化財の具体的なブラッシュアップ(文化財の保護、活用方法、文化財を用いた町づくり)に関する事業計画案を記します。計画策定においては、経済・産業振興、暮らしづくりなどの様々な視点を取り入れて、町内外のたくさんの方々に参加していただけるものとしします。

可能な限り多くの町民の皆さんに基本計画・実施計画策定、実施に参加してもらいます



1.概況

本町は、熊本県庁や熊本市中心部の北東部約15kmに位置し、雄大な阿蘇に源を発した白川中流域の平坦地にあり、地理・風土など全般的に恵まれた土地条件を備えた町です。町域は、東西11.8km、南北9.4kmで、総面積は37.57km²。

地形的には、町の中央部を東西に貫流する一級河川・白川を中心とした堆積地性低地からなり、その周辺には水田が広がっています。これと平行して南部と北部に標高40～100mの緩やかな台地が広がっています。さらに最南部と最北部は標高100～200mのやや高い森林台地となっています。

2.沿革・歴史環境

白川右岸(津久礼地区)から発掘された「六地藏遺跡」や「梅の木遺跡」、未調査ではあるが、左岸の「戸次遺跡」や「辛川遺跡」等により、本町域には縄文、弥生時代ごろから人が住んでいたことがわかっています。また「今石横穴群」など古代の遺跡も残され、さらには古来よりの「南郷往還」や「豊後街道」も通り、古くから人が行き来していました。中世から戦国時代にかけては合志氏が治め、合志城(現在の合志市)の出城の「今石城」なども築かれています。この時期、白川右岸の低地では早くから稲作が盛んに行われていましたが、白川左岸や町域の北側の台地上では、一部を除いて原野が広がっている状態です。

町域が大きな変貌を遂げたのは、加藤清正公の肥後入国以降のこと。天正16年(1588年)に入国した清正公は町の中央を貫く豊後街道の大規模な改修・整備を行い、本町の象徴のひとつともいえる「杉並木」を植樹、また、馬場楠井手をはじめとする井手を開削することで北部・南部の台地にも新田を開発、時を同じくしていくつかの集落が新たに設けられ、現在の本町の基盤が形作られました。

本町の全身「菊陽村」は、昭和30年、菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3ヶ村が合併し誕生しました。昭和39年には、新産業都市建設促進法の指定を受け、工業化と農業の転換が進み、昭和44年1月1日、町制を施行し「菊陽町」となりました。以後、昭和46年に熊本都市計画区域に含まれたことや新熊本空港の開港、九州縦貫自動車道の開通などを契機に都市化が始まりました。特に県下一のマンモス団地「武蔵ヶ丘団地」などの建設により熊本市近郊の住宅地へと変貌しています。

近年では、土地区画整理や下水道、生活道路などの都市基盤の整備により人口が急増し特に「光の森」地区では、大型商業複合施設や店舗なども建ち並び、武蔵ヶ丘団地を含めた大きな街が出来上がり、人口は4万人を突破しています。

一方、産業をみると、農業は、米、麦、野菜、花、畜産などが盛んで、特に、人参は国の産地指定を受け「菊陽人参」ブランドで全国に出荷され、人参を使った焼酎も特産品として開発されました。また、大規模な公園や温泉・農産物直売所などを備えた施設を整備し、都市部と農村部の交流を図りながら、農業の活性化にも努めています。工業では、熊本テクノポリス計画の中心地として各種の企業が進出し、近年では、世界的な大企業の工場が立地し、セミコンテクノパークを中心に工業地域を形成しています。

3.地区別の特徴

本町域は中部地域(菊陽中部小学校区)、南部地域(菊陽南小学校区)、中西部地域(菊陽西小学校区)、北部地域(菊陽北小学校区)、西部地域(武蔵ヶ丘、武蔵ヶ丘北小学校区)に大別されます。

中部地域、中西部地域、西部地域は、人口がそれぞれ、11,379人、10,940人、12,119人で、1970年代以

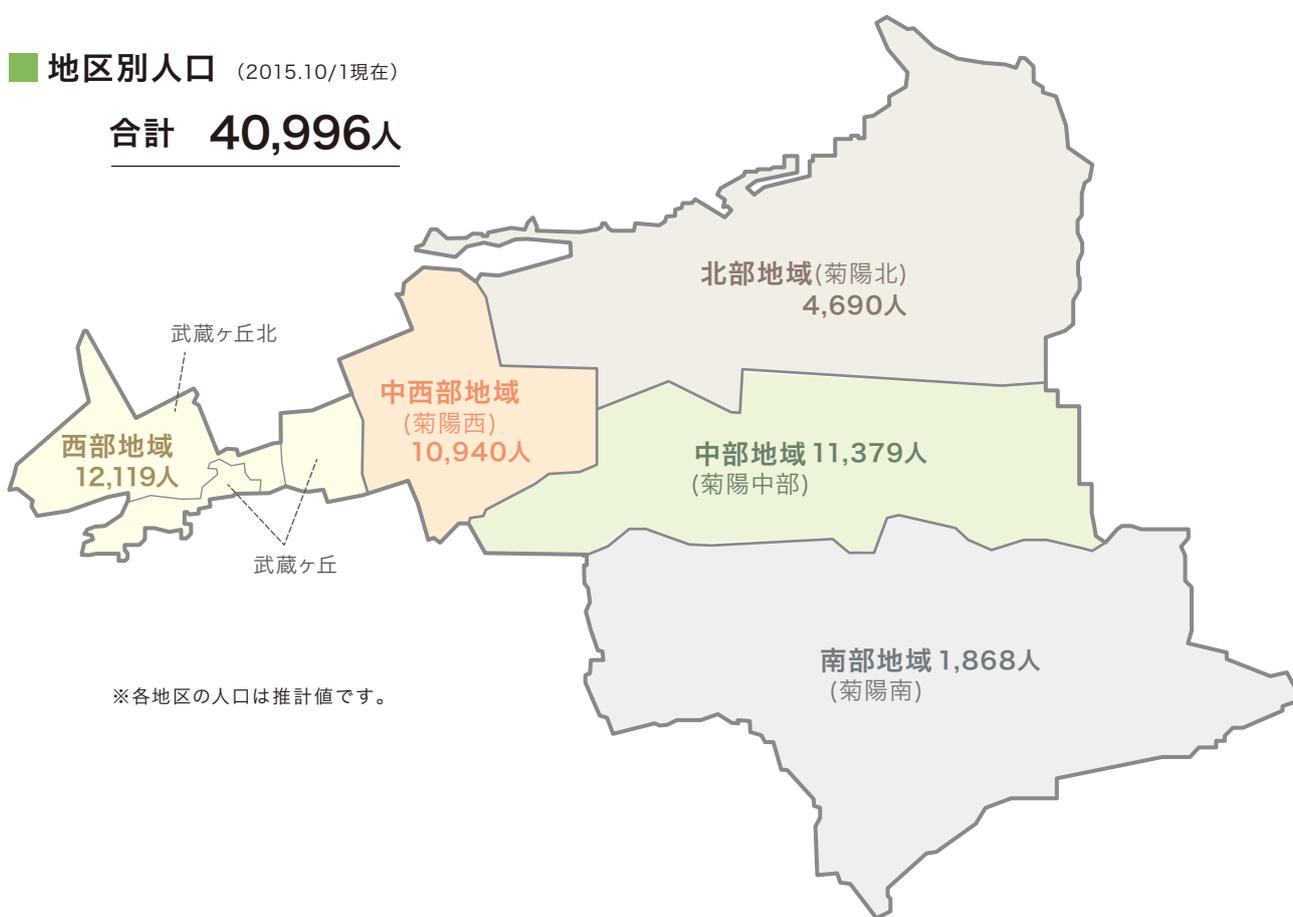
降に宅地化が進み人口が急増している地域です。企業や商業施設の設置も相次ぎ、急速に都市化が進展、他市町村から移り住んできた住民が多いことも特色です。

これに対して北部地域、南部地域は同人口が4,690人、1,868人で、人口の伸びは他地域に比べると緩やかです。田園風景が広がり、旧来からの町の基幹産業である農畜産業が特に盛んな地域です。

町域を東西に貫く形で、JR豊肥本線や、国道57号(菊陽バイパス)・旧57号(県道熊本-菊陽線)一級河川の白川が通っています。また60年前に3つの自治体が合併して町域を形作ったという経緯から、以前は町内における地域間の交流が滞っているという課題がありました。近年では道路網の整備や町内循環バスの運行、あるいは「すぎなみフェスタ」などの町民の皆さん同士の交流機会の創出などで、地区間の交流は以前に比べて活発化しています。(※各地区の人口は国勢調査の町人口を基に按分した推計値です。)

■ 地区別人口 (2015.10/1現在)

合計 **40,996人**



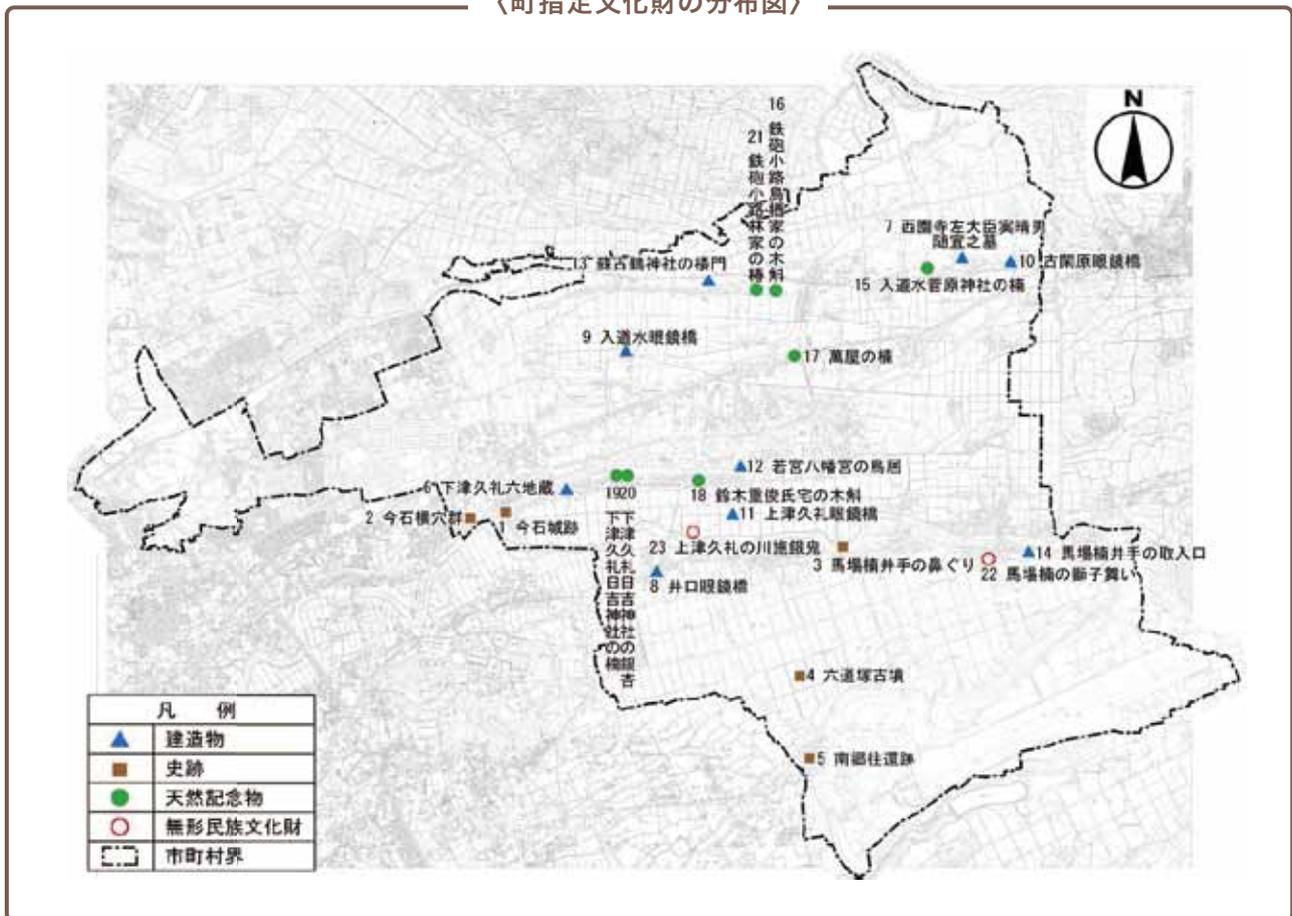
※各地区の人口は推計値です。

1.概況

(1) 地区別文化財の概要

現在、本町には24の建造物、史跡、遺跡、天然記念物などの町指定文化財があります。また、それ以外の12ヶ所も町の歴史・文化資産として認識しています。その所在地は中部、南部、北部地区に集まっており、中西部、西部地区は少なくなっています。特に西部地区は早い時期から宅地開発・都市化が進んだ影響もあり、町指定文化財はありませんが、花立・八久保は、鉄砲小路と同じく「地筒（熊本藩の郷土）」の集落だった歴史があり、地区内の神社や路地に古くからの歴史の名残を垣間見ることができます。

〈町指定文化財の分布図〉



町指定文化財の区分では、有形文化財が21ヶ所、無形文化財が3つとなっています。有形文化財の種類では、「建造物」が7つ、「天然記念物」が7つ、「墓地」、「横穴」、「古墳」「石造物」「城跡」「道路」「史跡」がそれぞれ1つずつ。天然記念物はすべて樹木(古木)で、歴史的な施設や町並みの中にあり、大きく「歴史資産」と位置づけることができます。

本町の文化財の時代分類は、古代のものが2、中世が3、近世が19で、特に江戸時代以降、加藤清正公や細川家統治に関連するものが多いのが特徴です。

■町指定文化財一覧

| 時代 | No | 名称 | 種別 | 所在地 | 指定年月日 |
|----|----|---------------|---------|-------|------------|
| 古代 | ① | 今石横穴群 | 横穴 | 下津久礼 | 昭和54. 2/23 |
| | ② | 六道塚古墳 | 古墳 | 辛川 | 昭和54. 2/23 |
| 中世 | ③ | 今石城跡 | 城跡 | 下津久礼 | 昭和54. 2/23 |
| | ④ | 南郷往還跡 | 道路 | 道明 | 昭和54. 2/23 |
| | ⑤ | 下津久礼六地藏 | 石造物 | 下津久礼 | 昭和54. 2/23 |
| 近世 | ⑥ | 馬場楠井手の鼻ぐり | 史跡 | 辛川・曲手 | 昭和54. 2/23 |
| | ⑦ | 西園寺左大臣実晴男随宜之墓 | 墓地 | 古閑原 | 昭和54. 2/23 |
| | ⑧ | 井口眼鏡橋 | 建造物 | 井口 | 昭和55. 2/26 |
| | ⑨ | 入道水眼鏡橋 | 建造物 | 杉並木公園 | 昭和55. 2/26 |
| | ⑩ | 古閑原眼鏡橋 | 建造物 | 古閑原 | 昭和55. 2/26 |
| | ⑪ | 上津久礼眼鏡橋 | 建造物 | 上津久礼 | 昭和55. 2/26 |
| | ⑫ | 若宮八幡宮の鳥居 | 建造物 | 上津久礼 | 昭和60. 5/15 |
| | ⑬ | 蘇古鶴神社の楼門 | 建造物 | 鉄砲小路 | 昭和60. 5/15 |
| | ⑭ | 馬場楠井手の取入口 | 建造物 | 馬場楠 | 平成21. 2/18 |
| | ⑮ | 入道水菅原神社の楠 | 天然記念物 | 入道水 | 昭和55. 7/1 |
| | ⑯ | 鉄砲小路鳥栖家の木斛 | 天然記念物 | 鉄砲小路 | 昭和55. 7/1 |
| | ⑰ | 萬屋の楠 | 天然記念物 | 新町 | 昭和55. 7/1 |
| | ⑱ | 鈴木重俊氏宅の木斛 | 天然記念物 | 上津久礼 | 昭和55. 7/1 |
| | ⑲ | 下津久礼日吉神社の楠 | 天然記念物 | 下津久礼 | 昭和55. 7/1 |
| | ⑳ | 下津久礼日吉神社の銀杏 | 天然記念物 | 下津久礼 | 昭和55. 7/1 |
| | ㉑ | 鉄砲小路林家の椿 | 天然記念物 | 鉄砲小路 | 平成10.1/29 |
| | ㉒ | 馬場楠の獅子舞い | 無形民俗文化財 | 馬場楠 | 昭和54. 2/23 |
| | ㉓ | 上津久礼の川施餓鬼 | 無形民俗文化財 | 上津久礼 | 昭和54. 2/23 |
| | ㉔ | お法使祭り | 無形民俗文化財 | 益城町 | 平成21. 2/18 |

■その他の文化財一覧

| 時代 | No | 名称 | 種別 | 所在地 |
|----|----|---------------|----------|-----------|
| 中世 | ① | 合志伊賀守隆 知の墓碑 | 墓碑 | 戸次 |
| | ② | 大堀木逆修碑 | 板碑 | 町民グラウンド内 |
| | ③ | 曲手阿弥陀三尊来迎線刻板碑 | 板碑 | 曲手 |
| | ④ | 戸次六地藏の板碑 | 板碑 | 戸次 |
| 近世 | ⑤ | 豊後街道杉並木 | 並木 | 県道337号線沿い |
| | ⑥ | 三里木跡 | 史跡 | 三里木 |
| | ⑦ | 四里木跡 | 史跡 | 南方 |
| | ⑧ | 頼山陽詩碑 | 歌碑 | 県道337号線沿い |
| | ⑨ | 石井樋表示石柱 | 建造物 | 古閑原 |
| | ⑩ | 放牛地藏 | 石造物 | 新町聞光寺 |
| | ⑪ | 妙見さんの棕の木 | 天然記念物 | 戸次 |
| | ⑫ | 古宮の榎 | 天然記念物入道水 | 近世 |

2.文化財の現状

(1) 認知・理解の状況

従来より、本町の歴史・文化財として最も名が知られていたのは、豊後街道の杉並木です。杉は「町木」にも指定され、また「杉並木公園」の名前の由来にもなり、町内外を問わず菊陽町のシンボルとして知られています。杉並木の保護・再生のために1987年には、清正公時代の謂われにならって屋久島から杉を取り寄せ植樹をしたりと、町と地域の皆さんの協力で現在も守られています。

鉄砲小路も比較的早くから、存在が知られていた歴史・文化資源です。1988年に生け垣の続く町並みが「第一回くまもと景観賞」に選ばれたことから、広く町内外に認知されるようになりました。

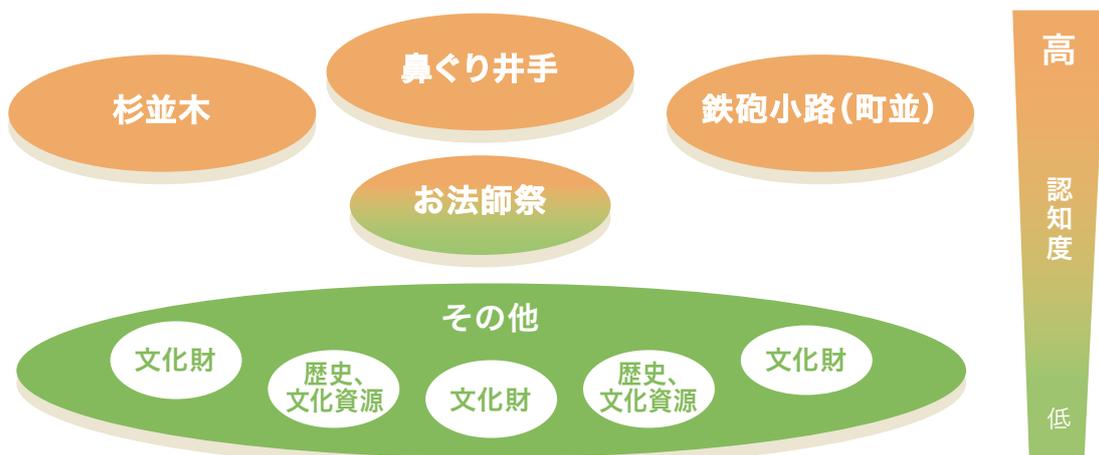
ただし、町指定の文化財になっているのは生け垣のある町並みではなく「鳥栖家の木斛」と「林家の椿」ですが、こちらの認知度は低くとどまっているようです。

馬場楠井手の鼻ぐり(通称:鼻ぐり井手)は、平成の初めごろまでは、地元(南部地区)の人のみぞ知る存在、「危険なので近づいてはいけない場所」と言われていました。その存在が広く知られるようになり、歴史・文化財としての価値が解明されたのは平成3年(1991年)以降です。この年の台風19号により鼻ぐり井手を覆い隠していた樹木が倒れ、「鼻ぐり」と呼ばれる特徴的な構造物の全貌が視認できるようになったことから、地元の有志をはじめ、専門機関・大学などの調査・研究が始まりました。

平成15年には、大規模な補修および、公園としての整備も行われ、平成21年(2009年)からは、南部地区の皆さんが中心となり「清正公さんの鼻ぐり井手祭」を毎年開催。鼻ぐり井手がある曲手集落だけでなく、馬場楠、辛川、戸次、井口、道明の南部地区の各集落を挙げての行事として定着し、町内の他地区、町外からも多くの観客を集めています。近年の報道・マスメディアでの紹介などと相まって、鼻ぐり井手の認知度は急速に高まっています。いまや本町の歴史・文化財の代表といっても過言ではありません。

無形文化財では、近年マスメディアに取り上げられたことなどから「お法使祭」の認知が高まっており、ご神体(神輿)が遷座し、また神輿を投げる珍しい祭りとして知られるようになってきました。

一方で、「杉並木」「鉄砲小路の町並」「鼻ぐり井手」が町内外に比較的知られているのに対して、その他の歴史・文化財についての認知度は低いと思われます。各歴史・文化財の地元では、史跡にまつわる祭りや伝統文化行事が伝承されていますが、その参加者が減少、あるいは行事そのものが衰退しているものも一部にはあります。近年では、歴史・文化財の地元・近隣の人々においても「存在は知っている」「名前は聞いたことがある」程度の認識の方も少なくなく、その価値、歴史的な背景などへの理解は、それほど高くないようです。(※菊陽町文化財保護委員への聞き取りより)



(2)文化財と地域の関わり・利活用の状況

従来より本町の文化財、歴史・文化資源と、地域の皆さんとは密接に繋がっていました。地域の氏神様として信仰されてきた社や無病息災の願いを込めてまつられてきた地蔵、それらへの感謝と守護を祈願するための祭りなど、古くより本町域で暮らした人々の暮らしと、文化財、歴史・文化資源はつながり、時代を経て各集落ごとに伝承されてきました。平成5年(1993年)度に、本町教育委員会が調べたところ、たくさんの文化財や歴史・文化資源にまつわる祭り・行事、あるいは風習が残されていることを確認しています。しかし、急速な都市化の進展、時代の変化の中で、本町の文化財、歴史・文化資源と町民の皆さんとの関わりにも変化が見られるようです。正確な現状は確認できていませんが、無形文化資源ともいえる地区に伝わる風習は、以前に比べて衰退しているものもあり、全般的に、地域の中での文化財、歴史・文化資源と人々の関わりは薄れてきているようです。

一方で、平成20年(2008年)より始まった「清正公さんの鼻ぐり井手祭」は、文化財、歴史・文化資源と地域の皆さんとの密接な関わりを生み出し、未来の伝統文化として定着しています。また鉄砲小路地区を中心に行われている「ふるさとまつり」やJR九州ウォーキング&菊陽町スタンプラリーにも町内外から多くの参加者が訪れています。

さらには、菊陽町商工会では町内の文化財や観光スポットを巡る「菊陽おでかけNAVI」を制作。インターネットホームページ等を通じて散策コースの情報を発信しているなど、文化財を見直し、利活用する動きも見られます。



清正公さんの鼻ぐり井手祭



菊陽町商工会が制作した文化財ガイド

3.町内に伝わる行事

■ 1月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|------------|-----------|---------|
| 1/1 | 年始 | 津留 |
| // | // | 南方 |
| // | // | 柳水 |
| // | // | 入道水 |
| // | // | 古閑原 |
| // | // | 三里木 |
| 1/13 | もぐらうち | 井口 |
| // | // | 津留 |
| // | // | 馬場 |
| // | // | 古閑原 |
| 1/15 | 綱引き | 中代 |
| // | 十五夜の綱引き | 津留 |
| // | 十五夜の綱引き | 柳水 |
| 1/15 | 厄入り厄晴れ | 南方 |
| // | // | 入道水 |
| 1/15周辺の日曜日 | どんどや | 馬場楠 |
| 1/14 | // | 井口 |
| // | // | 道明 |
| 1/10前後の日曜日 | 子ども会 どんどや | 下津久礼 |
| 1/15 | // | 武蔵ヶ丘5町内 |
| 1/15 | 鏡開き | 武蔵ヶ丘5町内 |
| 1/5 | 新年宴会 | 上津久礼 |
| 1/13 | 毘沙門様の祭り | 八久保 |
| 1/4 | 初山 | 堀川 |
| 1/15・30 | 御名號 | 中代 |
| 1/10・10/20 | 恵比須祭り | 新町 |

■ 2月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|-------|----------|------|
| 2/25 | 天満宮御神酒上げ | 津留 |
| 第4日曜日 | 敬老会 | 下津久礼 |

■ 3月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|------------|----------|------|
| 3/14 | 水神様御神酒上げ | 津留 |
| 3/25 | 子供奉納相撲 | 入道水 |
| 3/24・9/24 | 地藏様籠もり | 津留 |
| - | 馬祭り | 南方 |
| 第3日曜日 | 川祭り | 柳水 |
| 3/16・11/23 | 日吉神社祭 | 下津久礼 |
| 3/25・9/25 | 菅原神社祭 | 南方 |

■ 4月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|-------|----------|------|
| 4/4 | 先祖祭り | 井口 |
| 第1日曜日 | // | 出分 |
| 第1日曜日 | // | 中代 |
| 4/1 | // | 津留 |
| 第1日曜日 | // | 上津久礼 |
| 4/3 | // | 馬場 |
| 第1日曜日 | // | 柳水 |
| 第1日曜日 | // | 入道水 |
| 4/4 | // | 八久保 |
| 4/4 | // | 花立 |
| 第1日曜日 | 誘水 | 南方 |
| 4/25 | 畜産祭り | 古閑原 |
| 4/3 | 戦没者追悼慰霊会 | 堀川 |
| 4/15 | 春祭り | 柳水 |
| 4/4 | 厄入り厄晴れ | 柳水 |
| 4/4 | 雷様の祭り | 八久保 |

■ 5月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|----|-----|----|
| 下旬 | 敬老会 | 下原 |

■ 6月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|------------|---------|------|
| 下旬 | 御田祭り | 入道水 |
| 6/30 | 夏越し大祓い | 上津久礼 |
| 6月 | 夏越大はらい | 南方 |
| 下旬 | 夏越し大はらい | 入道水 |
| 6月下旬・12月下旬 | 夏越し大祓い | 柳水 |
| 6/26・12/26 | 大祓い | 八久保 |
| 6/26・12/26 | 大はらい | 花立 |
| 6/26 | 茅の輪くくり | 八久保 |

■ 7月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|-----------|------|-----|
| 7/22 | 川祭り | 中尾 |
| 7/22・9/15 | 西園神社 | 古閑原 |
| 7/28 | 御田祭り | 堀川 |

■ 8月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|-----------|------|---------|
| 8/13～8/16 | 地藏祭り | 津留 |
| 8/20～24 | // | 柳水 |
| 8/24 | // | 入道水 |
| 8/23 | // | 花立 |
| 8/24 | // | 馬場 |
| 8/7 | 七夕祭り | 古閑原 |
| 8/13 | 夏祭り | 井口 |
| 上旬 | // | 青葉台 |
| 中旬 | // | 新町 |
| 第1土曜日 | // | 武蔵ヶ丘8町内 |
| 8/17前後 | // | 向陽台 |
| 第1日曜日 | // | 沖野 |
| 8/19 | 川施餓鬼 | 上津久礼 |

■ 9月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|--------|-----------------|---------|
| 9/17 | 若宮八幡宮願上祭 | 上津久礼 |
| 9月 | 敬老会 | 武蔵ヶ丘7町内 |
| 中旬 日曜日 | // | 武蔵ヶ丘8町内 |
| 9/15前後 | // | 向陽台 |
| 9月 | 二百十日と水道祭りのお神酒あげ | 津留 |
| 9/25 | 鳥居祭り | 柳水 |
| 9/1 | 八朔祭り | 出分 |
| 9/25 | 天満宮祭り | 出分 |
| 9/14 | 地藏まつり | 新町 |

■ 10月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|-------------|----------|-----|
| 10/13 | 宮座祭り | 津留 |
| 10/15 | 宮座「秋の大祭」 | 花立 |
| 10/11・10/19 | 座祭り大祭 | 八久保 |
| 10/18 | 地藏祭り | 井口 |
| 10/18 | 観音様祭り | 辛川 |
| 10/18 | 観音祭り | 井口 |
| 10/18 | 天神祭り | 井口 |
| - | 御法使祭り | 戸次 |
| - | // | 馬場楠 |
| - | // | 曲手 |
| - | // | 辛川 |
| - | 獅子舞 | 馬場楠 |
| 10/19 | 秋祭り | 花立 |

■ 11月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|-------|----------------|------|
| 11/23 | 秋祭り、文化祭 | 新山 |
| 11/23 | 菅原神社秋祭り | 柳水 |
| 11/23 | 菅原神社 | 入道水 |
| 11/25 | 天満宮御神酒上 | 津留 |
| 11/25 | 天満宮祭り | 出分 |
| 11/23 | 若宮八幡宮氏子秋祭り | 上津久礼 |
| 第1亥の日 | 亥の子祭り | 八久保 |
| 第1亥の日 | 亥の子 | 花立 |
| 11/23 | 鉄砲小路ふるさとふれあい祭り | 堀川 |
| 11/15 | 古閑原座祭り | 古閑原 |
| 11/28 | 荒神様の祭り | 八久保 |
| 11/23 | 大原阿蘇神社例祭 | 新町 |

■ 12月

| 月日 | 行事名 | 地区 |
|--------------|------------|---------|
| 12/18 | 観音講祭り | 古閑原 |
| - | 火の神祭り | 辛川 |
| 12/24 又はその前後 | クリスマスパーティー | 古閑原 |
| 12/20以降の日曜日 | 餅つき | 武蔵ヶ丘5町内 |

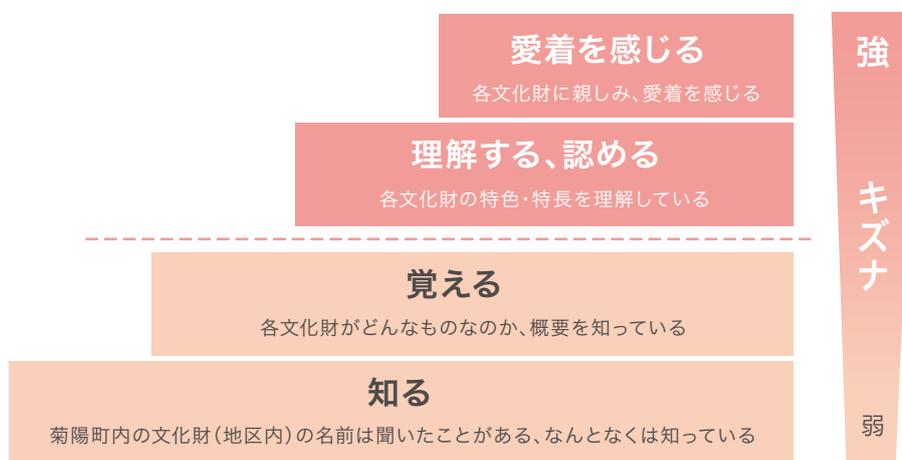
本町の現状、地域文化財の現状、および地域文化財関係各位への聞き取りなどを通して、本町の文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップおよびツーリズム促進についての課題を次のように整理しました。

1.文化財ブラッシュアップのための課題

〈課題1〉地域住民への浸透

本町の文化財を利活用するためには、広く文化財の存在・価値を認知させる必要があります。なかでも、まずは町民の皆さんが、文化財の価値を知って、理解して、さらには愛着を感じる事が不可欠です。現状では「鼻ぐり井手」「杉並木」「鉄砲小路」は町民の皆さんからの認知も高く、特に鼻ぐり井手は、ここ20年の間に南部地区のシンボル、心の拠り所として成長、定着しています。

他の文化財においても、鼻ぐり井手同様に、地元と一体となった諸活動・施策によって、認知・理解を促進、そして愛着を感じてもらえるまでに、その存在感を高めることが求められます。



〈課題2〉総合的な視点での文化財の価値の再認識・再発見

本町の文化財については町、あるいは町内の有志・任意団体等によって調査・研究が進んでいます。これまでは「学術的」な見地に基づく調査が主でしたが、観光等への利活用という視点での再確認・再認識も必要です。また、明治期以降の「近代化産業遺産」や「戦争遺跡」なども、広くくりに文化財として取り扱われる時代であり、町民の皆さんからの愛着を感じてもらうためにも、新しい資源候補も含めて、総合的な視点で町内の文化財の価値を再認識、再発見することが望まれます。



〈課題3〉近隣市町村の文化財も含めて価値を高める

本町の文化財として比較的名が知られている「鼻ぐり井手」は馬場楠井手として、熊本市東部とつながりがあります。また「清正公の利水事業」という視点で見れば、大津町や熊本市などとも関連が

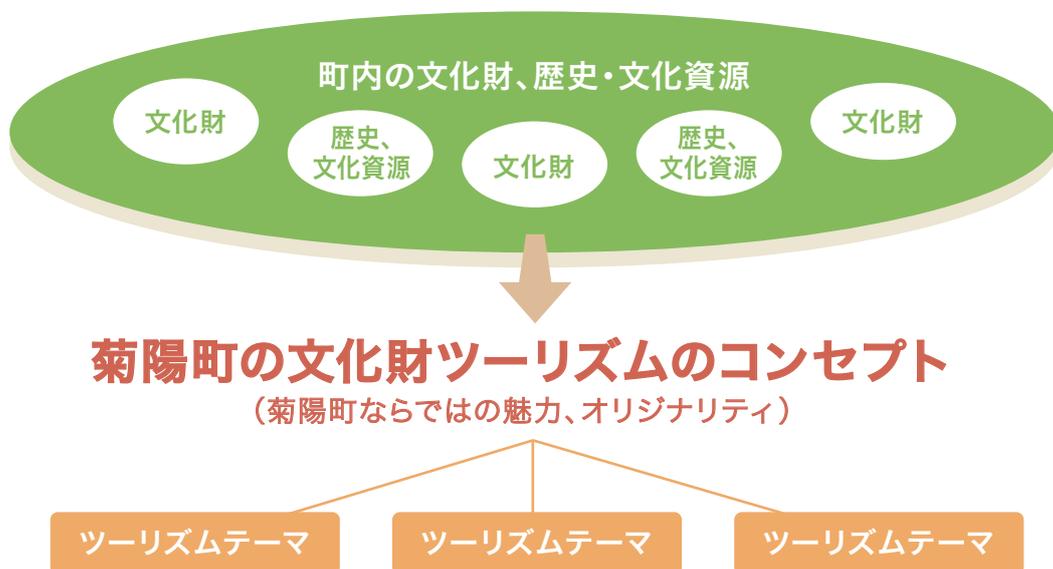
あり、また「杉並木」は、熊本市、大津町、阿蘇市などにつながります。

町内の文化財、歴史・文化資源だけでなく、関連のある近隣市町村と連携しながら相乗効果を狙い、文化財ツーリズムとしての価値を高めることが理想です。

2.文化財ツーリズム推進のための課題

〈課題1〉文化財ツーリズムのコンセプト、方向性の明確化

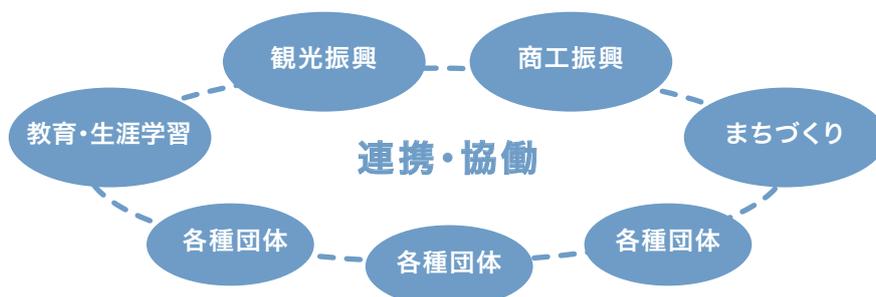
総合的な視点で本町の文化財の価値・魅力を再認識、再発見したうえで、それをどのように交流促進、ツーリズムにつなげていくのか、全体のコンセプトや方向性を明確にすること、そして菊陽町文化財ツーリズムのオリジナルのテーマ、具体的な内容に落とし込むことが必要です。



〈課題2〉文化財ツーリズムの運営体制の整備

文化財を利活用しツーリズムへと高めていくことは、教育、生涯学習に加えて、観光、まちづくり、あるいは商業振興、特産品開発など、さまざまな分野と関わることです。どのセクションが軸となり管理していくのか、どのように推進・運営していくのかの体制を整備することが必要です。

また、ツーリズムを推進していくには、地元地区での「受け入れ」体制も整える必要があります。町内で積極的に活動されている文化財、歴史・文化資源に関わる団体、個人の活動をリンクさせ力をひとつに集める必要があります。また、学校、教育期間、町内会、老人会などの各施設・団体との連携も不可欠です。さらには、町域を超えた近隣市町村との連携なども視野にいれた体制づくりが求められます。



〈課題3〉「観光施設」としてのハード面の整備

現状では、文化財の多くは「観光施設」ではありません。鼻ぐり井手公園などの一部を除いては、地元の人でも正確な場所を知らなかったり、駐車スペース、トイレなどもほとんど整備されていません。ツーリズムとして町内外の人々に巡ってもらうためには誘導看板等も不可欠であり、これらのハード面についても整備する必要があります。

文化財を、一般の人からみた「魅力」に「編集」することが必要

鼻ぐり井手などの一部の文化財、歴史・文化資源を除いて、文化財の名称、存在があまり知られていません。現状では知る人ぞ知る存在のものも少なくなく、文化財全体としては町民の皆さんへの浸透も、それほど進んでいません。また、各文化財の価値があまり理解されていません。

認知度を高めるために、告知広報活動や催し物等を実施することも必要ですが、文化財そのものに一般の人々が魅力を感じなければ、どれだけ広報をしてもたくさんの人は集まりません。一過性のものに終わってしまう恐れもあります。

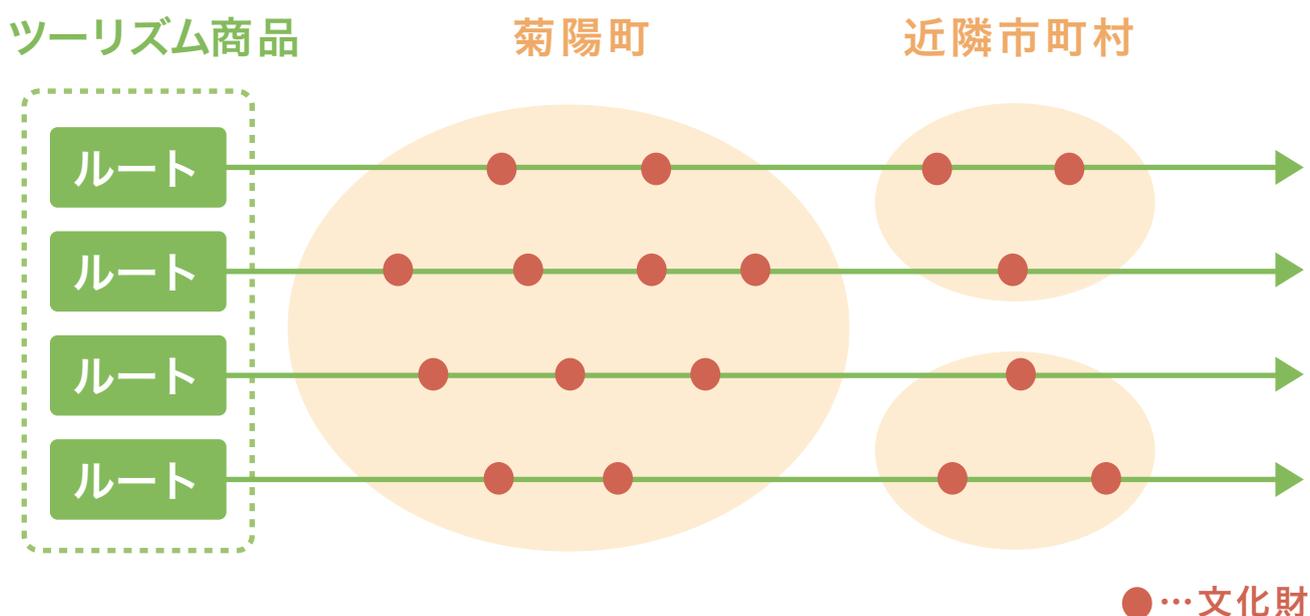
町内の文化財は、その背景を紐解いていくとそれぞれに魅力がありますが、一つ一つの粒が小さいことも否めません。文化財を組み合わせたり、関連のある近隣市町村の文化財等との連携を図ることで、相乗効果を高め、学術的にはそれほど詳しくはない「一般の方」からも魅力的に見えるように「編集」することが必要です。

「編集」したものは＝ツーリズム素材として商品化

各文化財、歴史・文化資源を「組み合わせる、連携させる」ことは、そのまま観光ルート化に結びつきます。魅力的に「編集」された素材を使って、ツーリズム商品化を図ります。

現代の観光トレンドは多様化しており、単なる物見遊山だけにとどまらず、さまざまな体験・学習などを目的とした旅＝ツーリズムが脚光を浴びています。

本町(近隣市町村)の文化財を用いた「生涯学習型の旅」あるいは「教育旅行」など、いろいろな視点からの「ツーリズム商品化」を考えます。また、文化財を活用した大掛かりな集客イベント等も検討する必要があります。



地域の皆さんとの協働

一部の文化財、歴史・文化資源を除いて、現状では誘導サインや看板の整備が不十分です、それらのハード面の整備と合わせて大切になるのは、地元の人々の受け入れ姿勢です。例えば集落内で文化財、歴史・文化資源への道を尋ねられた時に、地域の人々が道案内をしたり、それぞれの謂われ、背景を説明したり、町民の皆さんがガイドになれることが理想です。

そのためには、地域の皆さんと一緒に、各文化財を磨き上げながら、愛着をもってもらうことが求められます。

第2部 基本計画

1. ツーリズム振興の考え方

文化財、歴史・文化資源を「心の拠り所」として、町内の力を結集

広く本町の文化財の魅力を知らしめ、町内外の人々に文化財を通じて交流してもらうこと=文化財ツーリズムを確立し推進していくためには、本町のいろいろな力を結集させることが大切です。行政はもちろん、各種団体、そして個人、「オール菊陽」で町内を盛り上げることを目指します。本計画では文化財、歴史・文化資源とは、私達のふるさとを形作った先人たちの功績・営みの足跡そのもの、という視点に立ち、自分たちが共有する「たからもの」として町民の皆さん一人ひとりに愛着を感じてもらうことを第一に考えます。そして、文化財、歴史・文化資源の存在を通じて、本町で暮らすことの誇り、心の拠り所と感じてもらうことで、立場を越えた力の結集に結びつけます。

人々の「心の拠り所」として気持ち・力を一つに合わせることは、本町の文化財、歴史・文化資源の保護、利活用の具体的な活動を生み出すこと、ツーリズム確立・推進力を直接高めることに直結します。また「みんなに愛されている」という空気感・機運が町内で高まることで、文化財の「ブランド力」を高めることにもなります。

本計画では、文化財の利活用方法、情報発信の方法等を定めることはもちろん、町民の皆さんとの関係づくり、体制整備などの総合的な視点から推進力を高め、可能な限り多くの町民の皆さんと協働しながらの文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップ、ツーリズム促進を推進していきます。

1 みんなで文化財を磨き上げ、心の拠り所に

2 町内の力を結集させ、さらに文化財の価値を高める

3 光を広く町内外に波及させていく

4 外部からの評価でさらに文化財の価値アップへ

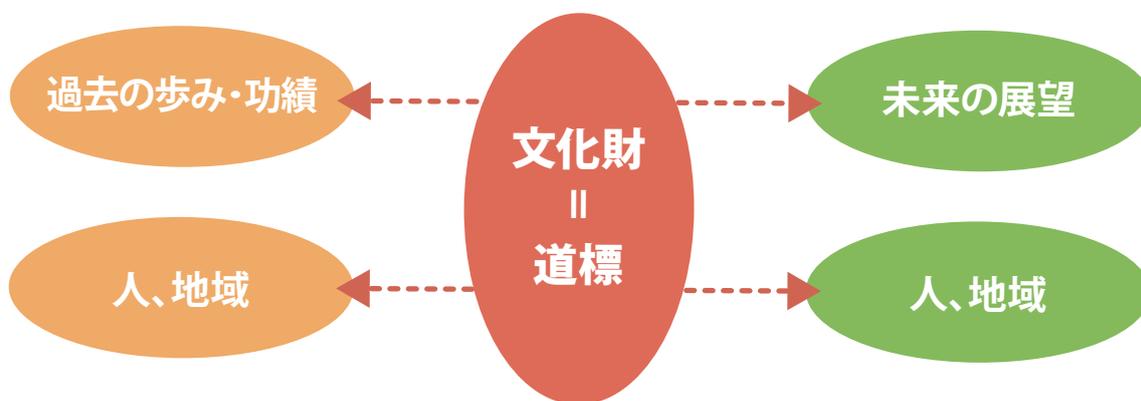
2. ツーリズム振興の基本理念

文化財、歴史・文化資源は、古代より本町域で暮らしたり、行き交った人々の足跡です。これらを見つめなおし、磨き上げなおすということは、本町に縁のある先人たちの歩み、功績をもういちど再認識することです。それは、町民の皆さん一人ひとり、町全体の「誇り」ということだけでなく、これから

未来に向けての「歩み方」、まちづくりにも関わるものです。文化財ブラッシュアップ、ツーリズム振興事業は、町の過去からの歩みを受け継ぎ、現代、そして未来へと歩いていくための道標づくり、そして、町外の方々が「菊陽町の心」に触れて、その魅力を理解してもらうための道標づくりというコンセプトで進めていきます。

以上をふまえ、本計画においては次のような基本理念を設定しました。

文化財を道標として、過去と未来、
人と人をつなぐことを目指します



3.文化財ツーリズムの将来像

光輝く文化財、歴史・文化資源を軸に、人が行き交い活力を生み出し、心と心が響きあい優しさを生み出す菊陽町になるように、文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップ、文化財ツーリズムを進めていきます。

水の道、人の道、暮らしの道

本町の現在の繁栄には、白川の水の恵が大きく関わっています。

水を治め、水を活かして広い水田を切り拓き、
豊かな暮らしをつくるために尽力した加藤家や細川家、
地元の先人たちの歩み、
白川の水にまつわる有形・無形の文化財が、
本町および近隣市町村にはたくさんあります。

町の中央を貫く豊後街道も本町の成り立ちを語る上で欠かせないもの、
古くから様々な人々や物、情報が行き交い
杉並木や鉄砲小路などをはじめとする景観を今に伝え、
独自の歴史・暮らし文化を育んできました。
明治時代には、街道に沿って鉄道が敷かれ新しい文化を運び続けています。

また、集落に残された文化財、歴史・文化資産は、
古くからの町域で暮らす人々の足跡そのものです。

本町(白川中流域)の成り立ちに大きく関わる白川とその水を引いた井手、
広がる田園で育まれた農産物の恵みを辿る旅、
そして古くからたくさんの人々が行き交った街道や、
それぞれの集落の先人たちの足跡を辿る旅など、
本町(白川中流域)ならではの古くからの人々の暮らしの息吹を体感できる旅、
それが菊陽町文化財ツーリズムのコンセプトです。

本計画は、平成27年度を初年度に五カ年で目標を達成することを目指すものです。まず基本計画として平成27年度(2015年度)末に下図のように、将来像の実現を目指すための「文化財ブラッシュアップ、文化財ツーリズムの目標」を定め、3つの施策の「大綱」を定めました。そして計画初年度である平成28年度(2016年度)の前半に、目標・大綱を具現化するための実施計画を策定します。

「基本理念」

文化財を道標として、
過去と未来、人と人とを結ぶことを
目指します

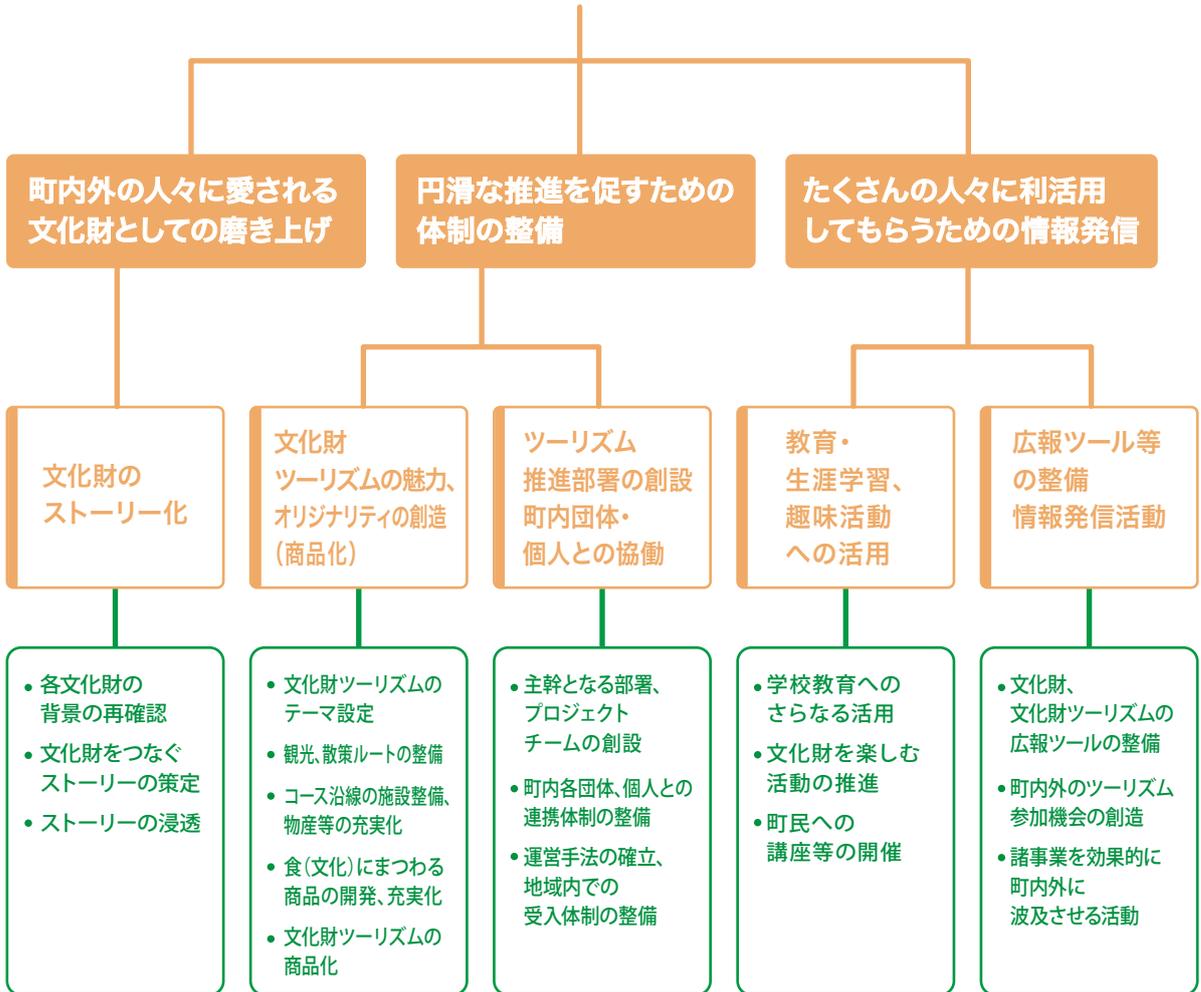
「将来像」

人が行き交い活力を生み、心と心が響きあい優しさを生む

水の道、人の道、暮らしの道

を体感してもらうツーリズム

「基本施策」



「事業内容」

「業務項目」

2. ツーリズム基本施策の概要

町内外の人々に愛される文化財としての磨き上げ

文化財、歴史・文化資源を町内外の皆さんに知ってもらうため、特に町内の皆さんに愛着を感じてもらうために、現存している遺構、目に見えるものを見てもらうだけではなく、その歴史的な背景や人々との関係などを深く掘り下げます。

事業(1) 文化財のストーリー化

文化財、歴史・文化資源が作られた(存在する)理由は何か、そこにどんな人々が関わっていたのか、今日まで残される中で、地域の人々の暮らしにどのような影響を与えたのか、など。現存する各文化財の背景に隠れている文化財と地域の暮らし、風土との関わりなどを「水の道、人の道、暮らしの道」の視点で深く掘り下げてストーリーを明確にします=「小ストーリー化」。そのうえで、本町の文化財・歴史文化資源を俯瞰して、本町の文化財をくくる大きなストーリーを策定します=「大ストーリー化」。それにより、町内外の皆さんに本町の文化財の魅力を端的に理解していただき、共感呼び起こします。

また、ストーリーをより魅力的にするために、例えば「加藤清正公・細川公にまつわる」ストーリー、例えば「白川の水」のストーリー、例えば菊陽の地を治めていた「合志氏にまつわる」ストーリーなど、町域を出て、近隣市町村の資源と結びつけたストーリー化も目指します。

業務項目

・各文化財の背景の再確認

文化財、歴史・文化資源に関わるこれまでの調査、研究結果を改めて紐解くと同時に、町外の識者(旅行・ツーリズム関係者、報道関係者など)の視点も加えて、本町の文化財の背景、ストーリーの素を洗い出します(平成28年3月現在進行中)。

・各文化財をつなぐストーリーの策定

洗い出した結果をもとに、本町(および近隣市町村)の文化財、歴史・文化資源をくくり、結びつけるストーリーを開発します。

・ストーリーの浸透

策定したストーリーをまずは町民の皆さんに浸透させるために、町民の皆さんへの発表会、町広報誌や各メディアを使った広報活動など様々な手法を用います。

〈ストーリーの方向性〉

コンセプトである「水の道、人の道、くらしの道」に則って、菊陽町文化財ツーリズムのストーリーの方向性として以下の4つを想定します。

「加藤清正公・細川公の里づくり」

勇猛果敢な武将として、城づくりの名人として知られる清正公の、もうひとつの側面である「地域づくり・おこし」に焦点を当て、清正公(熊本藩)とその後を継いだ細川公時代も含めて、殿様と庶民が一体となった新田開発、里づくりのストーリー。歴史・文化遺構や清正公の里づくりの結果生まれた有形・無形の文化財、歴史・文化資源を組み込みます。

「生命をはぐくむ水の物語」

町の中央を流れる白川の恵みは、本町の発展、そして熊本県発展の礎。川の源である阿蘇地域から、中流域、そして下流へと、白川を治め、活かし、川とともに生きてきた暮らしの中で生まれた有形・無形の文化財、歴史・文化をつなぐストーリー。

「暮らし・文化を運んだ歴史の道」

杉並木で有名な豊後街道では、いろんな人やモノが行き交い多くの物語が生まれています。そして様々な暮らしや文化を生み出しました。大津町に残る宿場町の名残り、街道を守るための地筒の集落(鉄砲小路、花立、八久保)、あるいは頼山陽の碑、西園寺さんの墓など、歴史をつないだ道と、街道沿いに明治時代に敷設された軽便鉄道と豊肥本線も含めて、町を東西に貫く「道」を軸としたストーリー。

「風土が育む新旧の食文化の物語」

水に恵まれ土壌がいい本町では、特産品として名高いにんじんをはじめ、農作物は「何でも穫れる」と言われるほど。馬肉を上手に食べる文化も根付いています。これらの食材や食文化を受け継ぎ、馬肉名物料理づくり「うまかロード」が展開されているほか、新しい料理やスイーツが生み出されています。隣接する大津町では江戸時代に街道を歩いた旅人をもてなすための菓子「銅銭糖」が現在も定番の和菓子として残っています。本町と近隣地域の風土と歴史の中で現在進行形で進んでいる「食」をテーマとしたストーリー。

⋮

以上を大きな柱としてストーリーを組み立てます。

ストーリーの詳細は、後に策定する「実施計画書」に記載します。

円滑な推進を促すための体制の整備

菊陽町文化財ツーリズムとはどういうものなのか、どんな魅力があるのか、どんな体験ができるのかを明らかにします。同時にツーリズムを実施していくための推進体制の整備、地元地区の受け入れ体制の整備などの実務レベルでの体制も整えていきます。

事業(2)文化財ツーリズムの魅力、オリジナリティの創造(商品化)

事業(1)で策定する「ストーリー」は、本町の文化財ツーリズムの特色であり、入込客を呼び寄せ・交流を促進させるテーマ、オリジナリティでもあります。各文化財の「小ストーリー」そして全体を括る「大ストーリー」を基本に、本町文化財ツーリズムがどんなものを表す表現「文言」や「タイトル」の整備、文化財ツーリズム自体の運営ノウハウ等を確立していきます。

業務項目

・文化財ツーリズムのテーマ設定

コンセプトである「水の道、人の道、暮らしの道」、そして前述のストーリーを基に、本町の文化財ツーリズムとは何か？という体験が出来るのかを表すテーマやタイトルを策定、それに合わせたツール等の整備を行います。

・観光、散策ルートの整備

テーマを体感してもらうための散策ルート、ツーリズムコースを複数コース設定。それに合わせてサイン、誘導看板、最寄りの交通機関、駐車場、トイレなどの情報を一元化。また地元地区の方々への説明等を行い、地元の方と一体となって観光・散策ルートを整備します。

・コース沿線の施設整備、物産等の充実化

策定した観光・散策コースの沿線、近隣の観光施設、休憩店などの「立ち寄りスポット」との協力体制の確立を行います。また観光客が喜ぶ特産品などの充実化も図っていきます。

・食(文化)にまつわる商品の開発、充実化

馬肉や町内で獲れる野菜等を使った食(料理、スイーツ)を磨き上げ、食・食文化の側面からも観光入込客が立ち寄れるスポットを充実させます。

・文化財ツーリズムの商品化

策定した観光・散策ルート、ツーリズムコース、物産等を合わせて、菊陽町文化財ツーリズムとして商品化。生涯学習や教育旅行(修学旅行)などの誘致も含めて、観光事業者・交通事業者等とも連携を図りながら商品化を行います。

〈コースの整備例〉

「加藤清正公・細川公の里づくり」

- ・鼻ぐり井手公園 ・馬場楠井手取入口 ・古閑原眼鏡橋 ・鉄砲小路
- ・上井手・塘町筋(大津町) ・御蔵跡(大津町) ・大津手永会所跡(大津町)
- ・光尊寺(大津町) ・年禰神社(大津町) ・苦竹古宮床(大津町) ・大願寺(大津町)
- ・上井手取入口(大津町) ・江藤家住宅(大津町) ・岡本家住宅(大津町) ・さんふれあ など

江戸時代加藤家、その後を次いだ細川家の白川中流域の新田開発、里づくりに関連する歴史文化遺構等に、里のめぐみを体感できる場所として「さんふれあ」などを組み合わせるコース

「生命をはぐくむ水の物語」

- ・鼻ぐり井手公園 ・井口眼鏡橋 ・古閑原眼鏡橋 ・入道水眼鏡橋(菊陽杉並木公園)
- ・柳水湧水公園 ・上津久礼眼鏡橋 ・丹防の吐(大津町) ・塘町筋(大津町)
- ・灰塚水道水槽(大津町) 左馬どん供養碑(大津町) ・下井手取入口(大津町)
- ・白川水源(南阿蘇村) ・鮎帰りの滝(南阿蘇村) ・妙見神社の池(南阿蘇村) ・寺坂水源(南阿蘇村) など

白川の水の利活用、そして白川の水の源に関する歴史文化遺構、スポット等を組み合わせるコース

「暮らし・文化を運んだ歴史の道」

① 豊後街道を軸としたコース

- ・鉄砲小路集落 ・蘇古鶴神社 ・花立集落 ・杉並木 ・頼山陽記念碑(菊陽杉並木公園)
- ・三里木・四里木 ・西園寺左大臣実晴男随宜之墓 ・五里木跡(大津町) ・清正公道(大津町)
- ・御茶屋跡(大津町) ・人馬所跡(大津町) ・室簀戸口門跡(大津町) など

豊後街道に関する歴史文化遺構、そこを行き交った人や物に関するスポットなどを組み合わせるコース

② 合志氏関連を軸としたコース

- ・今石城跡 ・合志伊賀守隆知の墓碑 ・竹迫城跡(合志市) ・山伏塚(大津町)
- ・玉岡城跡(大津町) 佐々木長綱の墓・今城跡(大津町) ・合志屋敷(大津町) など

中世に本町を治めていた合志氏に関する歴史文化遺構を組み合わせるコース

これらのコースはあくまでも概念的なものです。実際にツーリズムコースとして具現化するためには実際の交通事情や受け入れ態勢などを考慮し、さらに食事や特産品、テーマに関連する体験スポットなども組み入れます。(実施計画所に記載予定)

ツーリズム商品化にあたっては、車で移動のロングコース、徒歩での移動のショートコースなどの観光客のニーズ・実情に合わせたバリエーションを準備することが必要です。

事業(3)推進部署の創設、町内団体・個人との協働

文化財ツーリズムを確立、推進するために文化財の調査・保護の視点に加えて、観光活用、商工振興、まちづくりなどの視点を加えます。また、民間で文化財、歴史・文化資源の保護、利活用に取り組んでいる団体、個人とも連携し「オール菊陽」での推進・運営体制を体系化していきます。

業務項目

・主幹となる部署、プロジェクトチームの創設

教育委員会、商工観光、まちづくり、農政など文化財ツーリズム確立・推進に必要な不可欠な役場内部署を横断する新規部署、またはプロジェクトチームを創設します。

・町内外の各団体、個人との連携体制の整備

町の文化財保護委員をはじめ、文化財ボランティアガイドの会、あるいは商工会など、すでに文化財の保護・利活用に積極的に活動している各団体、そして老人会、公民館での活動、あるいは本町内にある企業などとの連携を図り、それぞれの役割、位置づけを明らかにします。また、近隣市町村の文化財と連携、相乗効果を得るために、近隣の自治体、関係団体をも含めた体制を構築します。

・運営手法の確立、地域内での受入体制の整備

文化財ツーリズムを実際に運営していく上では、地元地区の住民の皆さんの協力が欠かせません。先進地の事例等を取り入れながら、運営のノウハウ、手法の確立を図ります。

たくさんの人々に利活用してもらうための情報発信

菊陽町文化財ツーリズムのテーマ、魅力と、受け入れ・推進体制を整えるのと並行して利用に導くため、そしてブランド価値を高めるための情報発信活動を行います。

事業(4) 教育・生涯学習、趣味活動への活用

現在、菊陽南小学校や中部・北部地域の学校で実施している「鼻ぐり井手」を活用した教育を、本町文化財ツーリズム全体に拡大。西部地域の学校、あるいは町外の学校にも活用してもらえる体制をつくります。また、趣味、生涯学習、生きがいつくりの観点からも文化財ツーリズム確立・推進に多くの皆さんに関わってもらいます。

業務項目

・学校教育へのさらなる活用

「鼻ぐり井手」教育をお手本に、策定した文化財ストーリーを教育に活用。町のすべての小学校で取り入れてもらいます。またストーリーで繋がる可能性がある近隣の大津町、熊本市東部地区、南阿蘇村の学校での活用も働きかけます。

・文化財を楽しむ活動の推進

熊本県下で最初にできた総合型スポーツクラブ「スポーツクラブきくよう」の考え方を応用。老若男女が文化財、歴史・文化資源に触れて、楽しむ活動団体「文化財クラブきくよう」(仮)を立ち上げます。

・町民への講座等の開催

上記の文化財を楽しむ活動の推進の一環として、公民館やコミュニティセンターで文化財や文化財ツーリズムの魅力に触れてもらう講座や講習会を定期的で開催します。

事業(5) 広報ツール等の整備、情報発信活動

本町ツーリズムのコンセプト＝オリジナリティや、それに紐づく各ストーリー、散策コース・ツーリズムルート等を表す広報ツール等を整備します。あるいは、それらの魅力を実際に体感してもらうための催しやイベントの実施を計画します。

また、総合的に本町ツーリズムの魅力を県内、九州内、全国に発信するための様々な取り組みを行います。

業務項目

・文化財、文化財ツーリズムの広報ツールの整備、媒体等の活用

本町文化財ツーリズムのストーリー、特色・オリジナリティを効果的に伝えるためのツール類(ホームページ、動画、パンフレット等)を整備。また、ツールを実際に活用するための具体的な方法も合わせて策定します。

- 全体パンフレット
- ストーリー別パンフレット
- 紹介動画
- ツーリズム全体ホームページ
- 広告出稿
- 番組制作
- など

・町内外のツーリズム参加機会の創造

文化財ツーリズムに参加して実体験してもらうための機会を定期的に準備し、たくさんの町内外の人々に本町の文化財の魅力に触れてもらいます。

[概要]

文化財を訪ねながら、町内の人々とふれあっていただくスタンプラリー、あるいは、文化を菊陽町・白川中流域の特産物や「食文化・暮らし文化」を一堂に集めたフェスティバルなど、「水の道、人の道、暮らしの道」というコンセプトから導きだした「テーマ」、そして「阿蘇くまもと空港」「JR豊肥線」「九州自動車道」などの交通インフラなどもフルに活用して、町内外の人々に参加してもらい、交流を促進させるイベント等を計画・実施します。

・諸事業を効果的に町内外に波及させる活動

本町文化財ツーリズム事業を広く町内外に波及させるために各団体・個人の皆さん一人ひとりに「文化財ツーリズムサポーター」としてもらいます。そして、それぞれの立場での文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップ、文化財ツーリズムに関する諸事業への協働への実践を働きかけます。

- 菊陽町文化財ツーリズムサポーターの認定
- など

第3章

ツーリズム振興のタイムスケジュール

平成28年度(2016年度)を準備期間として29年度(2017年度)以降に、ツーリズム事業を展開しながら、並行して体制の整備・充実化を図り、本県で大きな国際大会が開催される30年度(2018年度)、31年度(2019年度)での一定の完成形を目指します。

| | 文化財のストーリー化 | 文化財ツーリズムの魅力、オリジナリティの創造 | ツーリズム推進部署の創設 町内団体・個人との協働 | 教育・生涯学習、趣味活動への活用 | 広報ツール等の整備 情報発信活動 |
|---------|--|---|--|---|--|
| 準備・プレ実施 | <ul style="list-style-type: none"> 各文化財の背景の再確認 文化財をつなぐストーリーの策定 | <ul style="list-style-type: none"> 文化財ツーリズムのテーマ設定 観光、散策ルートの整備 関連する物産等の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 学校教育へのさらなる活用 文化財を楽しむ活動の推進 町民への講座等の開催 | <ul style="list-style-type: none"> 主幹となる部署、プロジェクトチームの創設 町内各団体、個人との連携体制の整備 運営手法の確立、地域内での受入体制の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 文化財、文化財ツーリズムの広報ツールの整備 町内外からのツーリズム参加機会の創造(イベント実施) 諸事業を効果的に町内外に波及させる活動 |
| 2016 | | | ↓ | ↓ | ↓ |
| 2017 | 磨き上げ完了 | | 体制の整備完了 | | |
| 2018 | | | | ↓ | ↓ |
| 2019 | 計画進捗状況の確認、次の五カ年に向けた計画策定へ | | | | |
| 2020 | | | | ↓ | ↓ |
| 本格実施 | | | | | |

〈鼻ぐり井手公園交流センター情報発信〉

① 交流センター壁面情報発信

- 壁面パネル造作設置工事 ● 液晶パネル用DVD制作（約5分×5タイプ）

② 鼻ぐり井手交流センター用DVD制作（約15分）

③ 鼻ぐり模型作製

- 1/2スケール（3連・FRP塗装）＊約W3000×H4000×D1200 ● ジオラマ

④ 鼻ぐり井手パンフレット制作

- 日本語版 5,000冊 ● 英語版・韓国語版・中国語版 各1,000冊

⑤ マスコットキャラクター（サウスくん）着ぐるみ作成

- ＊ボア仕上げ、頭部着脱式

〈菊陽町文化財ツーリズム商品造成&情報発信〉

① 文化財ツーリズムの商品造成

② 文化財ツーリズムセールス用印刷物

- A5サイズ×24頁（表紙4頁＋本文20頁）

③ 文化財ツーリズムホームページの立ち上げ

④ 菊陽町文化財ツーリズム告知

- 熊日朝刊＋くまにちすばいす

⑤ ツーリズムルートの企画

- （車、JR&ウォーキング）

⑥ ツーリズムイベント企画・運営

- ＊スタンプラリー形式（通年）又はマラソン大会（年1回）など、開催形式で要検討

第3部 資料

1. 町内文化財の概要

■ 今石城跡 (いまいしじょうあと)

この今石城は、玉岡城(城主:帆保因幡守安重 現大津町)や須屋城(城主:須屋市蔵 現合志市)等と共に薩摩(鹿児島)の島津氏からの侵略に備えた、舌状丘陵の山城の一つであり、位置は今石神社とその後方台地と推定されています。

天正13年(1585)9月3日、島津方の将、川上左京亮と新納武蔵守は、大軍を率いて肥後に侵攻します。敵の大將・川上左京亮は、益城町本陣を置き、玉岡・今石城を攻め、石原野野介を総大将とした合志軍と、梅ノ木口の砦で一進一退の激戦を繰り返しました。しかし、今石は落城し、その後、敵の後を攻めていた新納武蔵守と共に合志城を攻め落とし、合志氏は滅亡しました。



■ 今石横穴群 (いまいしよこあなぐん)

この横穴群は、7世紀の中期から後期にかけて首長等の墓としてつくられたものと思われ、明治17年(1884)県道瀬田・竜田線の開通によって発見されたものです。当時は9墓が確認されたらしいですが、現在は2号墓、3号墓を残すのみです。

なお、県道開通時に2号墓の羨門部が削り取られ、第二次世界大戦時における防空壕の掘削で、それぞれの玄室(遺体安置室)の一部が欠損しています。また、どちらも単室・複床式横穴で、下流域の「つつじヶ丘横穴群」や「小碓橋際横穴群」等と同時代(古墳時代後期550~650)のものとして推定されます。



■ 馬場楠井手の鼻ぐり (ばばぐすいでのはなぐり)

菊陽町馬場楠の白川取水口から熊本市の東海学園前駅近くまで続く約12.4kmの農業用水路で現在でも多くの田畑に水を供給しています。

白川の南側に広がる「白水台地」は、川が流れる場所より一段高い土地であったため、ポンプや機械がない当時はその水を利用してお米や野菜を栽培することが困難でした。そこで、上流から人工的に水路を掘って新田開発が計画されます。

水路工事が完成すると9か村(当時)、約95町(約95ヘクタール)にもおよぶ農地に水が行き渡り、それまでの約3倍の収穫量をあげたそうです。(「勝国治水遺」鹿子木量平 著)

なお、造られた当時の記録は残されていませんが、加藤清正の肥後統治時代(慶長13年(1608)ごろ)に築造されたと伝えられています。その後、鹿子木量平(1753-1841)の著書により、馬場楠井手築造に関する時代や鼻ぐりの構造の通説が広まりました。



■ 六道塚古墳 (ろくどうづかこふん)

この塚の概要は、直径7メートル、高さ約3メートルで、未調査のため、断定はできないが、その形状、位置、地名、古代住居跡などからみて二段築成の円墳と推定されています。この塚の一角は、古くは唐川(辛川)原とよばれ、延元元年=北朝建武3年(1336年)8月18日、南朝方の菊池武敏・阿蘇惟澄連合軍と北朝方の将、今川蔵人大夫、託磨別当宗直、小代重峯、小代光信らが激戦をくりかえした古戦場としても知られています。また、弥生式土器の散布地としても知られ、多くの遺跡等が散在するところです。塚の上には楠の大樹がそびえ、その根元には「神石」が祀ってあります。この神石は、「さくらぎ神社」と称され、益城町寺中にある津森神社の末社と伝えられています。



■ 南郷往還跡 (なんごうおうかんあと)

肥後の国府「飽田府」は9世紀～14世紀末まで、古町村(現熊本市古町)にあり、政治・経済・文化の中心となっていました。この肥後の国府と阿蘇南郷とを結ぶ道路が南郷往還です。

南郷往還は、かつて、熊本市の長六橋を起点として、大江、保田窪、長嶺を経てこの道明に至り、西原村万徳、俵山を越えて阿蘇南郷谷、さらには、色見(阿蘇郡高森町)を経て、豊後竹田(大分県南西部)へ通じていました。当時は石畳が敷かれていたが、現在は、道明から高遊原台地に至る区間に約180mの石畳が残るのみです。

角にある追分石(道標)には、「左おふつ、右まんとく」の文字が刻まれており、すぐ横には、享保11年(1726年)建立の石地藏が道行く人の安全を見守り続けています。



■ 下津久礼六地藏 (しもつくれろくじぞう)

この六地藏は、室町時代(1400～1500)の作と推定されます。全高2.5メートル、宝珠(最上部分)、龕部(仏を6体刻んだ部分)は、後年の作ですが、傘・中台・幢身は当初からのものです。この六地藏は、現在地の南方約300メートル、通称「六地藏」の辻に建っていましたが、延宝6～7年(1678～1679年)のころの再三にわたる水難のため、村移りとともに窪田八幡宮の南方50メートル、村道の辻に移設されました。さらに、昭和46年(1971)区公民館の新築移転に伴い現在地に移されました。



■ 西園寺左大臣実晴男随宜之墓

(さいおんじさだいじんさねはるずいきのはか)

古閑原西端から北に農道を少しのぼった所に西園寺随宜を祀る神社があり、その境内中央部に玉垣で囲まれた墓碑があります。

この墓の主は、西園寺随宜朝臣(あそん)は、時の左大臣西園寺実晴の末子として京都に生まれましたが、生来、宮仕えを好まず、叔父にあたる長岡忠春の領分である入道水村の安福寺(阿弥陀堂)を仮の住居として、寛文5年(1665年)に移り住みましたが、寛文10年(1670年)8月15日、病にかかり静かに一生を終えました。

随宜朝臣の亡きあと、京都から井上伯耆が迎えの使者として派遣され、一人娘の須也姫をはじめ、侍女たちを京都へ連れ帰ったといわれています。



■ 井口眼鏡橋 (いぐちめがねばし)

この眼鏡橋は、馬場楠井手に架かる単一アーチ橋(石造)であり、昭和初期まで重要な生活道でありました。この橋の特徴は、輪石の接する部分に、すべて石楔(くさび)が使用されている点で、琉球式架橋法といわれ、県内でも極めて少ない貴重な石橋の一つです。この工法が用いられている眼鏡橋は、植木町豊岡にある豊岡橋(1802年)、御船町木倉にある門前川橋(1808年)がある。この2つの石橋の石工は、肥後の石工集団のリーダーである仁平(にへい)の弟子達の手によるものといわれている。井口眼鏡橋も同集団の手によるものと推定されます。

この橋も交通事情の変遷によって、東側1mが拡幅工事されており、東側の輪石は漆喰仕上げになっています。



■ 入道水眼鏡橋 (にゅうどうみずめがねばし)

この眼鏡橋は、本来、菊陽町原水を東西に流れる瀬田上井手の入道水菅原神社参道に架けられていましたが、県営瀬田上井手地区ため池等整備事業により瀬田上井手が拡幅されることになり、現地保存が不可能と判断されたため、菊陽杉並木公園ハス池に移設されました。なお、活用を考慮して復元の際に壁石・欄干が新設されていますが、特徴である真円に近いアーチ部は当時のままの姿を残しています。



■ 古閑原眼鏡橋 (こがばるめがねばし)

古閑原の南側を流れる瀬田上井手に掛かる単一アーチ橋です。以前は、重要な古閑原の生活道でしたが、昭和12年(1937)県道大津～植木線が開通したため、現在はあまり利用されなくなっ



ています。この橋は、井手の両岸が固い岩盤であることから、アーチの基礎は、井手底から約2.2メートル上方からはじまっている変形アーチ橋です。

■ 上津久礼眼鏡橋 (かみつくれめがねばし)

この橋は、津久礼井手(大アーチ)と瀬田下井手(小アーチ)の二つの流れに架かる町内唯一の二連式アーチ橋で、井手底が「津久礼井手側」は低く、「瀬田上井手側」は高いという、田地の実情に合わせて構築されていることです。昭和49年頃までは橋の南脇に自然石の碑文が建っていましたが、その後の護岸工事以後紛失しています。また、平成元年(1989年)の県営圃場整備事業実施により両井手がなくなり、それに伴い、この眼鏡橋も撤去される計画でしたが、現地を公園化し、そのままの状態で保存されています。



■ 若宮八幡宮の鳥居 (わかみやはちまんぐうのとりい)

若宮八幡宮は、安和2年(969年)山城国久世郡男山八幡宮から八幡大神を勧請※し、応神(おうじん)天皇とその御子、仁徳(にんとく)天皇と神功(じんぐう)皇后(息長足姫命(おきながたらしひめのみこと))併せ祀っています。以後700年余り白川右岸の地にありましたが、度重なる水難や疫病のため、延宝6~7年(1678~1679年)頃、村直りとともに現在地に移転建立されました。本殿前の二の鳥居には、「若宮社」の額が掲げられ石柱には「延寶八年正月吉日」「氏神當所移徙」の文字が刻まれ、遷宮と村直りの歴史を物語っています。



■ 蘇古鶴神社の楼門 (そこづるじんじゃのろうもん)

寛永12年(1635年)9月、鉄砲小路(てっぽうこうじ)の守護神として勧請された蘇古鶴神社の旧社地は、堀川の北方の杉山内にありました。明暦元年(1655)12月、新たに神殿を建立し遷宮されたのが現在の宮床です。祭神は、阿蘇一の宮・二の宮で菅原道真神を合祀しています。

名前の由来は、細川忠利公が鷹狩りでこの地に来られたとき、鶴が二羽(そこつ鶴)舞い降りてきたので、将来にわたり社号を阿蘇の蘇の字を鶴の上にかぶせて「蘇古鶴宮」と申し伝えたとのことです。この神社本殿前の参道に、町内唯一の楼門があります。奥行き3.06メートル、間口3.99メートルで、銅板葺きの二層建築です。門内には「奇岩窓神(くしいわまどのかみ)」、「豊岩窓神(とよいわまどのかみ)」の異名同体の二神が祀られています。



■ 馬場楠井手の取入口 (ばばぐすいでのとりにれぐち)

この遺跡は、慶長13年(1608年)、白川下流域の左岸を水田化するため、加藤清正公によって築造されたと伝えられています。

この取入口は馬場楠堰のすぐ隣にあり、特徴として岩を猪口(さかずき)の口のようにくり貫き、一定量の水量しか入れず、土砂をかき混ぜ排除する手法がとられています。後年、この設備が壊され、井手に土砂が堆積し、水の流れが悪くなりました。

馬場楠堰は、構築以来、何回か改修され、昭和28年6月の白川大水害後に現在はコンクリート造りの堰になっています。取入口は、一部補強されていますが今もなお健在です。この堰は、清正公に敬意を表してか、「清正堰」よも呼ばれています。

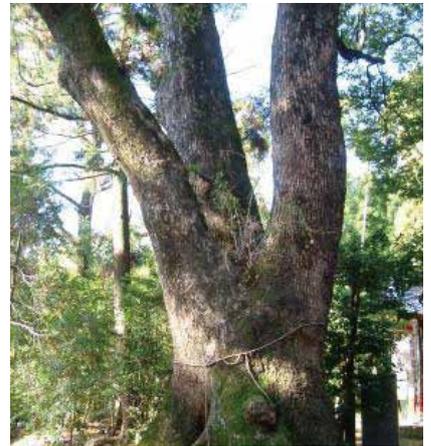
古い文献に、「此石井樋 長七間三尺 横壱間 高サ六尺五寸 落戸三枚」「磧所幅撫シ五間 長サ六拾八間五合 内三間五合通 六拾後五間磧所」とあります。



■ 入道水管原神社の楠 (にゅうどうみずすがわらじんじゃのくす)

入道水管原神社の境内にあります。地上2.8メートルで三幹に分かれ、さらに地上約8メートルで数本に分岐していますが、樹勢は極めて旺盛で町内随一の大樹です。

南側の根元に空洞があり、西側の「明治100年記念木」熊本緑化推進委員会(昭和43年12月建立)の標柱が立っています。



■ 鉄砲小路鳥栖家の木斛 (てっぽうこうじとすけのもっこく)

鉄砲小路鳥栖家の木斛は、鉄砲小路の東端にあります。細川忠利公が鳥栖家にお立寄りの時、この地に木斛が存在していたことが伝えられています。



■ 萬屋の楠 (よろずやのくす)

枯木新町(かれきしんまち)は、熊本藩主細川忠利公が寛永16年(1639年)豊後街道の宿場町として創設したところです。「萬屋」も当時の屋号に基づくもので、この樹木は、新町のほぼ中央、県道337号線北側の三島氏宅の前庭にあります。地上約18メートルで分岐していますが、それまでは直立で、素晴らしい樹勢です。樹下に「明治100年記念木」熊本緑化推進委員会(昭和43年12月建立)の標柱が立っています。

※細川忠利 寛永18年(1641年)没



■ 鈴木重俊氏宅の木斛(すずきしげとししたくのもっこく)

鈴木重俊氏宅の木斛は、上津久礼集落のほぼ中央にあります。



■ 下津久礼日吉神社の楠(しもつくれひよしじんじゃのくす)

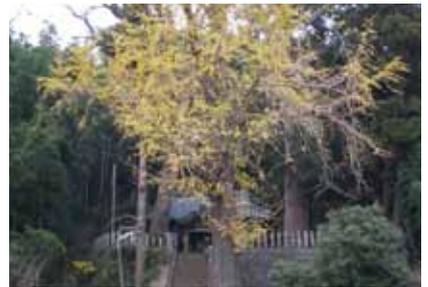
下津久礼区の東端、日吉神社の本殿前にあります。地上約8メートルで分岐するまで無傷で、樹勢は極めて旺盛です。春に黄緑色の小花をつけ、枝や葉に樟脳(しょうのう)の薫りがするクスノキ科の常緑高木です。神木として植えつけられたことにより、神社や仏閣で多く見られ、熊本県の県木でもあります。



■ 下津久礼日吉神社の銀杏

(しもつくれひよしじんじゃのいちょう)

下津久礼区の東端、日吉神社の正面石段中央の東にあります。イチョウ科の落葉高木で神社や寺院に多くみられます。樹皮は灰褐色で浅く裂けており、歯は扇形で先端中央部は浅く又は切れ込み、秋は黄色になります。雌雄異株で、材は基盤・将棋盤・彫刻用に用いられ、種子の銀杏は食用に重宝されています。



■ 馬場楠の獅子舞い(ばばぐすのししまい)

お法使祭りの神事の際に舞われるのが、「馬場楠の獅子舞い」です。菊陽町では、馬場楠地区だけに受け継がれています。戦時中から戦後の混乱期に一時中断しましたが、有志各位の尽力によって復活し、現在に至っています。

この獅子舞は重厚な獅子頭をもち、獅子額に合わせて前後2人にて舞う勇壮な舞です。獅子のほかに、玉取り、三味線、笛、太鼓等総勢30名がこれにあたります。(舞妓7~8名、玉取り2名、三味線7~8名、笛7~8名、太鼓1名) 「獅子楽」としては、道楽・十善寺楽・松囃子(まつばやし)の5つの舞いからなり、余興として玉取りが行われています。



■ 上津久礼の川施餓鬼(かみつくれのかわせがき)

上津久礼は、もと白川中流域右岸に沿って開かれた、豊かな水田地帯として早くから栄えてきた所です。また、その反面、再三にわたる水難と人畜の悪疫に悩まされ、延宝6~7年(1678~1679年)ごろ、藩命により村をあげて現在地に移り住みました。その後も人畜の無病息災と追善供養を忘れず、今日まで受け継がれてきたのが「川施餓鬼」です。

この行事は、毎年8月19日に津白橋ぎわで祖先の碑前慰霊の



読経が行われ、その後、供物が「川の餓鬼」に施されて午前
の儀式が行われます。午後からは、「施餓鬼船」が各組(区を6組に分
ける)ごとに工夫し制作されます。これは最大3メートルもあり、
麦わらで作られた船(馬をかたどったもの)に提灯と供物を飾り、
川に流していましたが、現在は環境に配慮しグラウンドに並べる
だけとなっています。

■ お法使祭 (おほしまつり)

お法使祭りは、毎年10月30日に行われる津森宮の祭りで、益
城町、西原村、菊陽町、の12地区を順次一年単位で廻る、津森神
宮(益城町寺中鎮座)の付属神事の一つです。御法使の当番区
では、それぞれ「御仮屋」を建て、一年間御神体を安置し、翌年、
次の当番区へ「受け、渡し」が行われます。

この祭りの特徴は、オホシサンを神輿に安置し、この神輿を
受け渡し場所へ運ぶ途中に、道や田畑にころがす荒神輿で大
変珍しい祭りです。

※オホシサン…天宇受売命(あめのうずめのみこと)(天の
岩戸にお隠れになった天照大神にお出ましい頂くために岩戸
の前で踊られた女の神様)といわれています。また、猿田彦命
(みちしるべの神)という説もあります。



2文化財ツーリズムを支える交通インフラについて

▶ 主要地域とのアクセスが良好なハブ機能を有しています



〈 鉄道 〉 九州旅客鉄道(JR九州) 豊肥本線

- 光の森駅 (敷地の一部が本町内)
- 三里木駅
- 原水駅 … 町役場まで徒歩約10分

〈 道路 〉

■ 高速道 九州自動車道

最寄りインターチェンジ: 熊本インターチェンジ … 町役場まで車で約15分。

■ 一般国道

国道57号
国道443号

■ 主要地方道

熊本県道30号大津植木線
熊本県道36号熊本益城大津線
熊本県道49号熊本大津線

〈 空港 〉

熊本空港(阿蘇くまもと空港) … 菊陽町役場まで車で約10分

就航路線

■ 国内線

| 航空会社 | 就航地 |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ● 日本航空 (JAL) [6] | 東京国際空港、大阪国際空港 |
| ● 全日本空輸 (ANA) | 東京国際空港、中部国際空港、大阪国際空港、那覇空港 |
| ● ソラシドエア (SNA) ・ 全日本空輸 (ANA) | 東京国際空港 |
| ● 天草エアライン (AMX) ・ 日本航空 (JAL) | 大阪国際空港、天草飛行場 |
| ● フジドリームエアラインズ (FDA) ・ 日本航空 (JAL) | 名古屋飛行場[7][8] |
| ● ジェットスター・ジャパン (JJP) | 成田国際空港 |

■ 国際線

| 航空会社 | 就航地 |
|----------------------------|-----------------------------------|
| ● チャイナエアライン(CI) | 台湾の旗 台湾・高雄国際空港(高雄市) |
| ● アシアナ航空 (OZ) ・ 全日本空輸 (NH) | 韓国の旗 韓国・仁川国際空港(ソウル) |
| ● 香港航空(HX) | 香港の旗 香港・香港国際空港(香港) |
| ● ファーイー・スタン航空(FE) | 台湾の旗 台湾・台湾桃園国際空港(台北)(2016年7月6日より) |

主要都市からの本町までの時間

- 熊本市から ▶ 車 30分
- 福岡市から ▶ 車 100分
- 佐賀市から ▶ 車 90分
- 長崎市から ▶ 車 150分
- 大分市から ▶ 車 150分
- 東京(羽田空港)から ▶ 飛行機 90分
- 大阪(伊丹空港)から ▶ 飛行機 60分



3. 文化財を活かした地域活性化・ツーリズム等の事例

岐阜県白川村

白川村文化遺産活用観光マネジメント事業

世界遺産に認定された合掌づくりの建物群で有名な白川村では、この建物群を軸に各地区に伝わる民謡や踊りなど有形・無形の文化財を観光に活用する事業を実施。

〈事業の内容〉

① 地域の文化遺産普及啓発事業

白川村内の地域ごとに継承されている民謡の後継者育成と保存を目的に「白川村踊り街道フェスティバル」を実施。踊りをテーマに各地域の連携を街道としてPR。

② 地域の文化遺産継承事業

「白川村踊り街道フェスティバル」に合わせて伝統芸能継承者の養成講座を実施。各団体あたり2時間の講座を5回行った。

③ 地域の文化遺産継承事業

文化遺産を目的とした観光客の動態やニーズを把握するためのアンケート調査を村内を訪れた観光客を対象に実施。

静岡県掛川市

掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

重要文化財「掛川城御殿」や歴史文化財が多く残されている掛川市では、歴史建造物が立ち並ぶ一帯を「歴史文化ゾーン」として整備するほか、宿場町文化、茶の産地としての茶文化、伝統工芸などを次世代に継承し観光事業への活用、市活性化への取り組みを行っている。

〈事業の内容〉

① 掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

掛川城を中心とした歴史文化ゾーンを全国に発信するために、同地区での将棋をテーマとしたまちづくりや、市内に300年伝承されている祭りばやしを子どもたちに技術・演技指導することで継承していく取り組み、同市の工芸品として以前は盛んに作られていた葛布を復活、活性化させる取り組み、お茶文化を継承させるための「市民茶会事業」などを実施。

② 掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業

既存文化資源への観光需要が低迷する現状の中で、掛川市に伝わる「報徳思想」や生涯学習、スロライフ等の精神文化をよりどころとした「交流型ツーリズム」の確立と内外への情報発信を実施。文化遺産が集積する中心市街地「歴史文化ゾーン」において、関連する文化施設運営機関や文化活動を行う各種団体との意見交換などを実施し、観光関係者、マスメディア関係者へのモニターツアーなどを実施。「交流型ツーリズムプラン」を策定した。まずは市民に向けた交流型ツーリズムの啓発活動を行っている。

古墳時代からの石の遺産が残り、江戸時代以降は、各地に石を送り出した石の産地として知られている小豆島では、石積みの土手で築かれた棚田や石切り場跡などたくさんの石にまつわる史跡があり、石とともに花開いてきた暮らし文化などに焦点をあてたツーリズム事業を実施。

〈事業の目標〉

文化遺産ツーリズムの実践によって、地域の知=文化と歴史を見つめ直し、再発見される魅力を後世に伝える”仕掛け”をつくる。

文化遺産は研究のためだけにあるのではなく、そこに住む人たちや後世の人たちのためにある。だから現地に住む方々とともに遺跡を整備、保存、継承していくべきではないかという考え方に基づき、島外からの来訪者が実際に調査研究に参加し、地域で交流する人の数を増やすことを目的。来訪者が情報を一方通行で受け取るのではなく、調査に参加することで来訪者自身が情報を生みだすと共に、現地ではできない「体験」を提供する。

〈事業の内容〉

「石の文化ロード」プラン

五カ年計画で文化遺産ツーリズムを実践し、小豆島東海岸に「石の文化」ロードを確立し、関係人口を増加させる。

- 石に関連するスポットを巡るツアーの実施
- シンポジウムの開催 ●セミナーの実施 など

| | | |
|-----|------------------|----------------------------------|
| 1年目 | 地域の足固め | セミナー、ボランティアガイド養成、ニーズ・シーズの調査 |
| 2年目 | 各施策の始動 | アシスタントテクノクラーツ制度準備、体験型ツーリズムの設計・始動 |
| 3年目 | 取り組みの評価 改善策立案 | 資格制度にて調査補助員活動、体験型ツーリズム評価、 |
| 4年目 | 定着化に向けた 改善実施 | 資格制度の評価、リピーターの確保、代理店との提携 |
| 5年目 | 取り組みの定着化へ | 資格制度の拡大 |

上野城を中心とした武家屋敷など城下町の面影を今も色濃く残し、市内各地に歴史的・文化的な史跡建造物が点在している伊賀市では、それらの文化財を保存しながら互いに連携させて。観光資源や市民への生きた教材として様々な方法で活用。

〈事業の内容〉

① ウォーキングトレイル事業

市内各所に点在する文化的遺産や観光施設等、豊富な地域の宝物をつないで有機的に活用、町歩きが楽しめるまちづくりを進めるため、また、安全で快適な歩行環境を整備するため、市民ワークショップを開催しながら景観に配慮した地道風アスファルトや側溝改良、街路灯や防護策の整備、石材ベンチの設置等を実施。

② ふるさと学習スタンプラリーの開催

市内の文化財を地域の子どもたちに知ってもらうことを目的に、市内の子どもたちを対象に市内の文化財を繋いでのふるさと学習スタンプラリーを開催している。

③ 伊賀の文化の体験・発信地区

伊賀上野をもっと魅力と元気のあるまちにするため「町家あそび」をコンセプトに町家を飲食店、ギャラリーショップなどの複合施設として整備したほか、文化財をカフェとして活用などを行っている。

宇和島市には400年前に築城された宇和島城や江戸期の文化を象徴する数々の歴史文化遺産が継承されている。プロジェクトでは「江戸文化」をテーマに有形・無形の文化財を活用した取り組みを行うことで観光振興と地域の活性化を目指す。事業の推進にあたっては教育委員会文化課が文化財の取扱等に関する指導や調査を担当。商工観光課が観光業務に関する業務を担当するなど庁内横断の連携体制で実施。

〈事業の内容〉

① 宇和島市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

地域の文化遺産情報発信「江戸文化」をテーマとしたホームページを作成。また市内のまちづくり系のNPO法人や観光事業者を対象に地域の文化遺産の活用や情報発信を行うための文化遺産コーディネーターの養成講座を実施。参加メンバーで先進地の視察、城下再発見のワークショップ等を行い、散策のためのガイドブックを作成。

さらに「宇和島・小江戸フェスティバル」を実施し歌舞伎役者の舞踊やトークショーを行った。

4. イベント展開例

旅の拠点。旅の通過点に。

本町は、JR豊肥線、空港、高速道路、など公共交通インフラが充実しており、熊本市と阿蘇の熊本の主要な観光地を結ぶ中間地という立地にも恵まれています。その立地と交通インフラをフルに活かし、そこに歴史・文化を組み合わせ「熊本観光ルートのハブ的存在」を目指します。本町を中軸に、近隣地域、そして阿蘇や熊本市への観光を組み立ててもらいます。



観光ルート途中で、ひとやすみ。

運転疲れで少し休みたい。
疲れた子どもを休ませたい。
食事したい。お茶したい。

行動・観光ルートの中心(ハブ)に

ここを拠点に観光地に行きたい
観光に必要なモノを買いたい。

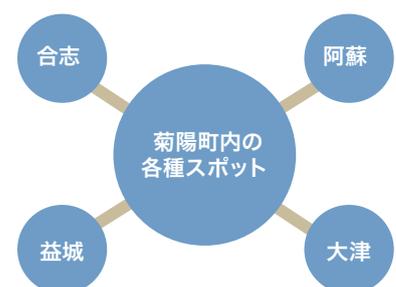
観光コースに取り入れたい。

観光地とつながっている。
立ち寄るメリットがある。
ちょうどやっている。

菊陽町と周辺地域を結ぶ周遊企画

「水の道・人の道・暮らしの道」めぐりラリー

菊陽町の文化財「水の道」「人の道」のストーリーにまつわる史跡や公園、水の恵みで生まれた農産物を使った料理等が味わえるスポットをまわると菊陽町の特産物が当たる！



※やまなみハイウェイ40周年記念で実施した周遊企画「やまなみ宝めぐり」。観光スポットを「宝」と表現し、宝探しという企画で観光客の回遊を促進した。

周辺地域の観光客も立ち寄りたくなる

人・暮らし・ぶらんちマルシェ

歴史文化と食を融合！菊陽町や白川中流域の水の恵み、歴史の恵みで作ったスイーツや食、地元の新鮮農産物などが集まって開催する「少し遅目の朝ごはん」をテーマとした朝市。

- 菊陽郷土料理コーナー（馬肉料理文化体験）
- 菊陽カフェ大集合
- 採れたて野菜市場
- 菊陽野菜ジュースバー
- 手作り雑貨コーナー
- おにぎりふるまい
- パン焼き体験



※毎月、毎週など、定期的で開催し定例化。周辺を訪れる観光客にも人気のスポットに。 ※写真はイメージです

家族みんなで楽しめるメインイベント

くらし旅のファミフェス

「鼻ぐり井手公園」「杉並木公園さんさん」「ふれあいの森公園」「光の森町民センター」の4つの会場で同時開催。「水」「人」「暮らし」のテーマごとに様々な体験やステージイベントなどを展開。菊陽町に古くから伝わる伝承文化や遊び体験など家族みんなで楽しめるフェスティバル。

- 菊陽郷土芸能体験
- 懐かし遊び体験
- パパ村/段ボールハウスづくり、DIY教室
- ママ村/お菓子づくり、パッチワーク
- こども村/木の遊具、らくがきボード
- ステージ/音楽、ダンス、アニメ
- フィールド/ふれあい動物園、ふあふあ、おさがりマーケット



※春と秋に開催する大型イベントで集客を集める。

5. 近隣市町村の文化財

■ 大津町の文化財

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|--|--|
|  <p>ワクト石遺跡</p> |  <p>杉水西光寺</p> |  <p>鎌倉屋敷跡</p> |
|  <p>今村天神</p> |  <p>杉水菅原神社</p> |  <p>片俣菅原神社</p> |
|  <p>無田原遺跡</p> |  <p>円満寺</p> |  <p>中窪田神社(初生神社)</p> |
|  <p>彦しゃん水車</p> |  <p>九万石城跡</p> |  <p>矢護川の水神(諏訪神社・諏訪水源)</p> |
|  <p>下中神社</p> |  <p>千人塚</p> |  <p>古城村城跡</p> |
|  <p>古城神宮</p> |  <p>淀姫神社</p> |  <p>多々良製鉄遺跡</p> |
|  <p>御所原・下猿渡六地藏</p> |  <p>大年神社</p> |  <p>仮宿天神</p> |

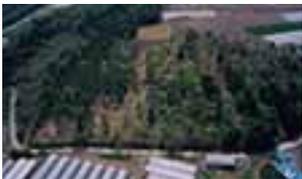
| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|--|--|
|  上猿渡遺跡 |  馬場観音堂 |  弘化橋 |
|  合志屋敷 |  今城跡 |  佐々木長綱の墓 |
|  祝屋敷跡 |  真木大神宮 |  無動寺跡 |
|  五里木跡 |  清正公道 |  丹防の吐 |
|  御蔵跡 |  手永会所跡 |  御茶屋跡 |
|  高札場跡 |  人馬所跡 |  大松山公園 |
|  水月庵 |  光尊寺 |  日吉神社 |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|--|---|---|
|  浄正寺 |  上井手・塘町筋 |  松古閑天神 |
|  大願寺 |  年禰神社 |  室箕戸口門跡 |
|  軽便鉄道停車場跡 |  円通庵 |  室町 |
|  石造眼鏡橋 |  室菅原神社 |  苦竹古宮床 |
|  灰塚護摩壇碑石 |  灰塚水道水槽 |  山伏塚 |
|  天神森の棕 |  窪田阿蘇神社 |  横綱不知火光衛門 |
|  銅鉾 |  窪田日吉神社 |  玉岡城跡 |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|--|---|--|
|  上陣内石幢 六地藏(ろくんぞ) |  左馬どん供養碑 |  江藤家住宅 |
|  光徳寺 |  奥の七塔 |  中島日吉神社 |
|  森駅記念碑 |  岡本家住宅 |  森村神宮 |
|  甕(こしき)神社 |  岩坂五輪塔 |  岩坂経塔 |
|  大林古墳群 |  大林の牛舞 |  上井手取入口 |
|  瀬田裏遺跡 |  瀬田妙見神社 |  下井手取入口 |
|  岩戸神社 |  阿蘇北向き原生林 |  外牧代官所跡(東福寺) |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|--|---|---|
|  南郷往還入り口 |  外牧阿蘇神社 |  錦野菅原神社 |
|  南郷堀 |  吹田神宮 | |
| 覚音谷(かくおんだに)横穴群 | | |

■ 合志市の文化財

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|---|--|
|  今町座組阿弥陀如来像 |  二子山石器製作遺跡 |  天神平の樟 |
|  黒松古墳群 |  医音寺跡 |  竹迫城跡 |
|  虚空蔵さん |  須屋神社・須屋神社三十六歌仙絵馬 |  竹迫日吉神社 楼門及び社殿 |
|  須屋神楽 |  合志町高千穂神楽 |  竹迫初市 |

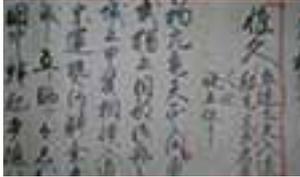
| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|---|---|
|  |  |  |
| 須屋小屋地蔵祭 | 弘生ウソ替祭 | 竹迫観音祭 |

■ 南阿蘇村の文化財

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|---|---|
|  |  |  |
| 五足の靴の歌碑 | 古代住居跡 | 河陽F遺跡 |
|  |  |  |
| 十六羅漢窟 | 柏木谷遺跡 | 阿弥陀如来座像 |
|  |  |  |
| 千手観音 | 十一面観音 | 六地藏 |
|  |  |  |
| 馬頭観音 | 長野の岩戸神楽 | 阿蘇五岳太鼓 |
|  |  |  |
| 久木野太鼓 | 南阿蘇村祇園の岩戸神楽 | 大阿蘇名水太鼓 |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|--|--|---|
|  立石稲荷社 |  足手荒神社 |  西宮神社 |
|  卯添神社 |  久木野神社 |  八坂神社(北山神社・祇園社) |
|  日吉神社 |  上久木野神社 |  濁川橋 |
|  黒川橋 |  群塚神社 |  長野阿蘇神社 |
|  銭瓶橋 |  野口雨情の民謡碑 |  若山牧水夫妻歌碑 |
|  西南の役慰靈碑 |  落合直史孝女白菊の詩碑 |  赤瀬伝吉の墓碑 |
| 原尻神社 | | |

■ 益城町の文化財

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|---|---|
|  <p>馬水権現神社</p> |  <p>覚 木山氏略系図之写</p> |  <p>大宰府天満宮連歌屋記事</p> |
|  <p>赤井城跡</p> |  <p>木崎荒帆神社</p> |  <p>木崎の獅子舞</p> |
|  <p>砥川阿蘇神社</p> |  <p>砥川の獅子舞</p> |  <p>風雲山重福寺阿弥陀石仏</p> |
|  <p>砥川疎水</p> |  <p>飯田山常楽寺</p> |  <p>秋永遺跡</p> |
|  <p>神楽社</p> |  <p>猫伏石</p> |  <p>府内古閑権現社</p> |
|  <p>葉山古墳</p> |  <p>古閑地藏堂</p> |  <p>妙見神社</p> |
|  <p>馬水狐塚古墳</p> |  <p>木山神宮</p> |  <p>道安寺跡</p> |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|--|---|--|
|  木山城跡 |  城の本古墳群 |  南の獅子舞 |
|  大楠山安養寺跡 |  愛宕堂 |  左の目八幡宮 |
|  尾峰山福田寺跡 |  鬼の窟古墳 |  柳水石橋 |
|  津森神宮 |  お法使祭 |  潮井神社 |
|  四賢婦人記念館 |  津森城跡 |  千光寺本尊 |
|  碑伝(影向石) |  宝篋印塔(稚児の塔) | |
| 古閑遺跡・古閑北遺跡 | 木山神楽 | 福原横穴群 |
| 城山銅山跡 | | |

■ 熊本市の文化財

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---|---|---|
|  熊本城 |  細川家舟屋形 |  水前寺成趣園 |
|  古今伝授の間 |  旧細川刑部邸 |  清正公下賜の扇子 |
| 六殿神社楼門 | 旧第五高等学校 | 熊本大学工学部 |
| 木造僧形八幡神坐像並びに木造女神坐像 | 木造東陵永ヨ禅師倚像 | 木造十一面観音立像 |
| 短刀 銘光世 | 巴螺鈿鞍 | 梵鐘 |
| 蒔絵調度類 | 肥後阿蘇氏浜御所跡出土品 | 台付舟形土器 |
| 紙本墨書寒巖義尹文書 | 紙本墨書日本紀寛宴和歌(上・下) | 阿蘇家文書 |
| 細川家文書(二百六十六通) | 熊本城跡 | 熊本藩主細川家墓所 |
| 千金甲古墳(甲号) | 千金甲古墳(乙号) 目 | 釜尾古墳 |
| 池辺寺跡 | 御領貝塚 | 塚原古墳群 |
| 阿高・黒橋貝塚 | 熊本藩川尻米蔵跡 | 西南戦争遺跡 |
| 藤崎台のクスノキ群 | スイゼンジノリ発生地 | 立田山ヤエクチナシ自生地 |
| 矮鶏 | タンチョウ | 下田のイチョウ |
| 船底五輪塔附板碑 | 円台寺の石造笠塔婆 | 大慈寺の層塔(永仁五年銘) |
| 大慈寺の層塔(無銘) | 大慈寺の宝篋印塔 | 大慈寺の宝塔(元仁元年) |
| 洋学校教師館 | 本光寺の笠塔婆の塔身 | 紙本著色出山釈迦図及び観世音菩薩図 |
| 紙本水墨雀竹図 | 絹本著色阿弥陀三尊図 | 絹本著色阿弥陀三尊来迎図 |
| 紙本著色宮本武蔵像) | 竹林七賢図屏風 | 木造釈迦如来坐像及び両脇侍立像 |
| 木造馬頭観音立像 木造及び銅造懸仏 | 木造獅子頭 | 短刀 祐定(付清正拵網代鞘) |
| 太刀 元国 | 太刀 国次(付素銅兵庫鎖太刀拵) | 工芸品 太刀 延寿国日出 |
| 刀 同田貫正国 | 刀 雅楽助 | 刀 延寿宣勝 |
| 脇差 石貫景介 | 脇差 同田貫上野介 | なぎなた 兵部 |
| 鐺 林又七作 遠見松透 | 鐺 林又七作 九曜桜紋透 | 鐺 志水甚五作 茶筌図 |
| 鐺 志水甚五作 梟図 | 鐺 西垣勘四郎作 窓桐透 | 鐺 西垣勘四郎永久作 銀二引九曜桜紋透 |
| 鐺 平田彦三作 鉄三光透 | 鐺 平田彦三作 素銅木瓜形 | 鐺 神吉楽寿作 雨竜透金渦象嵌 |
| 武蔵鐺 | 勝色緞具足 | 腹巻大袖添 |
| 活人形谷汲観音像 | 尚書正義版木 | 切支丹銅鐘 |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---------------|---------------------|-----------------------------|
| 銅造 五鈷鈴 | 銅造 独鈷杵 | 紅糸威腹巻 附鎧櫃 |
| 出雲風土記 | 豊後風土記 | 伊勢物語 |
| 源氏物語 | 古今和歌六帖 | 歌合類聚 |
| 十首歌合 | 百番歌合 | 幼童抄 |
| 連歌作法書 | 和訓押韻 | 新撰万葉集 |
| 幽斎公・三斎公御筆謡本 | 太鞍秘伝抄 | 詠歌大概抄・秀歌大略抄 |
| 俊成卿・定家卿両筆歌切 | 新勅撰和歌集 | 天正廿年詠草 |
| 菊池万句 | 獨行道 | 肥後国検地諸帳 |
| 曾畑遺跡出土植物質資料 | 磁州窯系鉄絵壺 | 領内名勝図巻 |
| 小堀流踏水術 | 武田流(細川流)騎射流鎗馬 | 肥後神楽 |
| 西福寺の庚申塔 | 大江義塾跡 | 浦山横穴群 |
| 大慈寺境内 | 稻荷山古墳 | 明德官軍墓地 |
| つつじヶ丘横穴群 | 円台寺磨崖仏群 | 慈恩寺経塚古墳 |
| 七本官軍墓地 | 寂心さんの樟 | 滴水のイチョウ |
| 明治天皇小島行在所 | 小泉八雲熊本旧居 | 四時軒 |
| 徳富旧邸 | 金子塔 | 正平塔(石燈籠) |
| 安元元年笠塔婆(屋蓋部分) | 成道寺六地藏塔 二基 | 成道寺五輪塔 |
| 成道寺板碑群 | 木部六地藏塔 | 林田左京亮逆修板碑 |
| 池辺寺関係石造物 | 日向六地藏塔 | 奥古閑六地藏 |
| 四方寄六地藏 | 平井宮庚申塔 | 御馬下の角小屋 |
| 近代建築物(衛兵所) | 清田家住宅附細川忠興知行宛行状他9点 | 鞍掛字阿弥陀堂の板碑 |
| 豊岡の眼鏡橋 | 高の石造六地藏塔 | 高の石造宝塔 |
| 七所宮の石造宝塔 | 服部の五輪塔 | 砥石の宝篋印塔 |
| 田原の五輪塔附板碑 | 舞尾の六地藏板碑 | 如意輪観世音菩薩像 |
| 木造釈迦如来坐像 | 木造三十三観音厨子入り | 池辺寺仏像 |
| 木造虚空蔵菩薩坐像 | 面木木造十一面観音坐像 | 嶽麓寺銅造誕生仏 |
| 江月院銅造誕生仏 | 増福寺銅造誕生仏 | 紙本着色沢村大学画像 |
| 池辺寺縁起絵巻 | 加藤清正公肖像画 | 紙本墨書成道寺記 |
| 池辺寺古文書 | 本覚院殿(加藤清正側室)墓出土品 | 越州窯青磁水注及び同伴須恵器(塔ノ本遺跡土壌墓出土品) |
| 中村家文書 | 尾跡地藏講帳・恵美須祭礼帳・西之宮講帳 | 河内町役場文書 |
| 津波供養塔 | 津波供養碑 | 津波供養碑(蓮光寺) |
| 津波供養碑 | 熊本城出入鑑札 | 池辺寺伝来宝物 |
| 松尾焼 | 肥後ちゃんかけ | 肥後神楽(上南部) |
| 肥後神楽(平山) | 銭太鼓踊り | 柚木神楽 |
| 立福寺神楽 | 明德神楽 | 白浜岩戸神楽 |

| 名称 | 名称 | 名称 |
|---------------------------------|-----------------------|------------------------|
| 野出春日神社大神楽 | 大多尾大神楽 | 新町獅子舞 |
| 清水菅原神社神楽 | 天福寺裏山古墳群 付学承院跡宝篋印塔 | 富ノ尾古墳 |
| 水前寺廃寺跡 | 健軍神社杉馬場 | 健軍神社境内 |
| 檜崎山古墳群 | 千金甲丙号古墳群 | 城山古墳群(一の塚・二の塚・三の塚) |
| 細川忠利公火葬地 | 肥後出水国分寺塔心礎並礎石 | 明治天皇御幸御野立所 |
| 明治天皇小島行在所跡 | 四時軒跡 | 渡鹿菅原神社境内 |
| 木部地藏堂敷地(道伝寺跡) | 百梅園跡 | 夏目漱石内坪井旧居跡 |
| 山伏塚 | 花崗山陸軍埋葬地 | 釣耕園 |
| 叢桂園 | 井上横穴群 | 塩屋北ノ崎古墳 |
| 差茂塚古墳 | 砂鉄水路跡(2ヶ所) | 加藤家墓地 |
| 道家之山の墓 | 嶽麓寺跡の中世石造物群 | 畳ヶ石 |
| 平阜支石墓 | 高熊古墳 | 陳内廃寺跡 |
| 陳内瓦窯跡 | 瑞巖寺跡 | 天社宮の大クスノキ |
| 旧代継宮跡大クスノキ | 釜尾天神のイチイガシ | 河内晩柑原木 |
| 徳王の桜 | 宮原菅原神社のイチイガシ | 早野ビル |
| 九州学院高等学校講堂兼礼拝堂 | 九州女学院高等学校本館 | 熊本市水道記念館(旧八景水谷貯水池ポンプ場) |
| 長崎次郎書店 | 今村家住宅 | 熊本大学本部(旧熊本高等工業学校本館) |
| 熊本大学医学部山崎記念館(旧熊本医科大学図書館) | ピーエス熊本センター(旧第一銀行熊本支店) | 熊本学園大学産業資料館(旧熊本紡績電気室) |
| マミフラワーデザイン熊本教室花峰館(旧鐘淵紡績熊本工場診療所) | 熊本ルーテル学園神水幼稚園園舎 | 富重写真所 |
| 慈愛園モード・パウラス記念資料館(旧宣教師館) | 浜田醤油店舗 | 浜田醤油主屋 |
| 浜田醤油洋館 | 浜田醤油三番蔵 | 浜田醤油旧圧搾機室 |
| 浜田醤油旧原料倉庫 | 浜田醤油旧石室 | 浜田醤油給水塔 |
| 浜田醤油煙突 | リデル、ライト両女史記念館 | 本妙寺仁王門 |

【発行機関】

菊陽町教育委員会生涯学習課

【編纂委託会社】

株式会社 熊日広告社

【編纂協力者】

| | |
|---------------------|--------|
| 菊陽町文化財保護委員委員長 | 上村 隆一 |
| 菊陽町文化財保護委員副委員長 | 前田 千佳子 |
| 菊陽町文化財ボランティアガイドの会会長 | 矢野 誠也 |
| 菊陽町南小学校校長 | 柴田 敏博 |
| 菊陽町総務部総合政策課 | |
| 菊陽町産業建設部商工振興課 | |
| 菊陽町産業建設部都市計画課 | |

平成28年3月

